

かな や にし い せき
金 屋 西 遺 跡

(A・B地点の調査)

2003

埼玉県児玉町遺跡調査会





A地点第75号土輪 (SK75) 出土火輪



序

私たちの郷土児玉町には、有形・無形の文化財や地下に埋もれた埋蔵文化財など、貴重な文化財が数多く存在しています。これらの文化財は、郷土の発展とその遍歴や足跡を物語る文化的・歴史的資料であるとともに、将来の豊かな地域社会や文化の形成に向け、その礎として活用していかなければならない国民的・社会的財産でもあります。

これらの文化的遺産は、郷土を愛した多くの先輩たちの英知と努力によって、現在まで守り伝えられてきたものであり、文化財としてそれらを大切に継承し、次の時代を担う子供たちに正當に伝えていくことが、現代を生きる我々に託された重要な責務の一つと考えます。

本書は、平成7年と平成13年に実施した児玉町大字金屋に所在する金屋西遺跡のA地点とB地点の発掘調査の成果を記したものです。調査地点からは、いずれも中世から近世を主体とする遺構や遺物が検出されましたが、これらは当地域では比較的報告例が少ない時期の資料であり、また隣接する寺院の創立時期を考える上でも、大変貴重な成果を得ることができたと言えます。

本書が、地域の貴重な埋蔵文化財の保護や普及・啓発のための資料として、また今後の学術的な地域史研究の進展のための基礎資料として、多くの人々に広くご活用いただければ幸甚に存じます。

最後になりましたが、発掘調査から本書刊行に至るまで、文化財保護に対する深いご理解と多大なご協力を賜りました株式会社倉林と倉林アイ子氏をはじめ、関係各位の皆様にご心より感謝申し上げます。

平成15年3月6日

児玉町遺跡調査会
会長 富丘文雄

例 言

1. 本書は、埼玉県児玉郡児玉町大字金屋字西215-6番地と210-8番地に所在する、金屋西遺跡のA地点とB地点の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、A地点が事務所建設、B地点がアパート建設に伴う浄化槽埋設工事による事前の記録保存を目的として実施した。
3. 発掘調査は、A地点が株式会社倉林（代表取締役倉林修司）、B地点が倉林アイ子氏の委託を受けて、児玉町遺跡調査会（会長富丘文雄）が実施し、その調査担当にはA地点を鈴木徳雄と徳山寿樹が、B地点を恋河内昭彦があたった。
4. 発掘調査の期間は、A地点が平成7年9月25日から11月15日まで、B地点が平成13年9月26日から10月16日までである。
5. 発掘調査から本書刊行に要した経費は、すべて委託者が負担した。
6. 本書の執筆及び編集は、恋河内が行った。
7. 本書に掲載した写真は、A地点の遺構を主に徳山が、B地点の遺構を恋河内が撮影し、遺物については増田久江が撮影した。
8. 本書で使用した地図は、国土地理院発行の5万分の1及び2万5千分の1と、児玉町役場発行の2千5百分の1である。
9. 本書中の第5図A地点全体図と第24図B地点全体図に記載された国家座標のXY座標値は、新座標による数値で、()内の数値は発掘調査当時の旧座標による座標値である。
10. 抄録中の北緯と東経の数値は、新座標の数値を換算したものである。
11. 出土遺物観察表に記した記号は、以下のとおりである。
A-法量、B-成形、C-調整、D-胎土、E-色調、F-残存度、G-出土層位、H-備考
12. 発掘調査から本書刊行に至るまで下記の方々や機関からご教示やご協力を賜った。記して感謝いたします。

赤熊 浩一、浅野 晴樹、荒川 正夫、太田 博之、金子 彰男、倉林アイ子、倉林 修司、
昆 彭生、坂本 和俊、篠崎 潔、須田 英一、外尾 常人、田村 誠、富田 和夫、
中沢 良一、長瀧 歳康、中村 倉司、増田 一裕、町田奈緒子、松本 完、丸山 修、
矢内 勲、

埼玉県教育局文化財保護課、埼玉県埋蔵文化財調査事業団、早稲田大学本庄考古資料館

目 次

序

例 言

I	発掘調査に至る経緯	1
1	A地点の発掘調査の経緯	1
2	B地点の発掘調査の経緯	2
II	遺跡の地理的・歴史的環境	3
III	金屋西遺跡の概要	7
IV	A地点の発掘調査	11
1	掘立柱建物跡	11
2	土 壙	11
3	溝 跡	39
4	調査区内出土の遺物	45
V	B地点の発掘調査	48
1	掘立柱建物跡	48
2	土 壙	48
3	溝 跡	56
4	B地点出土の遺物	57
VI	ま と め	60
	参 考 文 献	62

写 真 図 版

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図	金屋西遺跡位置図	Ⅶ
第2図	周辺の中世関連遺跡 (1)	4
第3図	周辺の中世関連遺跡 (2)	5
第4図	金屋西遺跡A・B地点位置図	8
第5図	金屋西遺跡A地点全体図	9
第6図	第1号掘立柱建物跡	10
第7図	土 壙 (1)	14
第8図	土 壙 (2)	15
第9図	土 壙 (3)	16
第10図	土 壙 (4)	17
第11図	土 壙 (5)	18
第12図	土 壙 (6)	19
第13図	土 壙 (7)	20
第14図	土壙出土遺物 (1)	30
第15図	土壙出土遺物 (2)	31
第16図	土壙出土遺物 (3)	32
第17図	土壙出土遺物 (4)	33
第18図	土壙出土石製品	34
第19図	土壙出土古銭	35
第20図	第1～3号溝跡	40
第21図	溝跡出土遺物 (1)	42
第22図	溝跡出土遺物 (2)	43
第23図	A地点調査区内出土遺物	46
第24図	金屋西遺跡B地点全体図	47
第25図	第1号掘立柱建物跡	48
第26図	土 壙	53
第27図	第1号溝跡	56
第28図	B地点遺構出土遺物	58
第29図	B地点調査区内出土遺物	59

図 版 目 次

- 図版 1 A地点北側隣接地の長谷観音寺
(宝蔵寺)
B地点北側隣接地の真福寺
- 図版 2 金屋西遺跡A地点全景(東より)
金屋西遺跡A地点全景(西より)
- 図版 3 金屋西遺跡A地点調査区南西側
(西より)
金屋西遺跡A地点調査区北東側
(北より)
- 図版 4 A地点第13号土壌
A地点第14~16号土壌
- 図版 5 A地点第18~23号土壌
A地点第38号土壌
- 図版 6 A地点第39号土壌
A地点第47・50・51号土壌
- 図版 7 A地点第40・41号土壌(南から)
A地点第40・41号土壌(北から)
- 図版 8 A地点第52・53号土壌
A地点第59・61・63号土壌
- 図版 9 A地点第59・60・61・63・64・
65号土壌
A地点第67号土壌
- 図版10 A地点第66号土壌遺物出土状態
A地点第66号土壌
- 図版11 A地点第45・66・68・69・71・
72・79号土壌
A地点第73~78・80号土壌
- 図版12 A地点第73~82号土壌
A地点第79号土壌
- 図版13 A地点第80~82号土壌
A地点第83号土壌
- 図版14 A地点第1号溝跡(北より)
A地点第1号溝跡(南より)
- 図版15 A地点出土遺物(1)
- 図版16 A地点出土遺物(2)
- 図版17 A地点出土遺物(3)
- 図版18 A地点出土遺物(4)
- 図版19 A地点出土遺物(5)
- 図版20 A地点出土遺物(6)
- 図版21 A地点出土遺物(7)
- 図版22 A地点出土遺物(8)
- 図版23 A地点調査区内出土鉄滓
金屋西遺跡A地点の現況と長谷
観音寺(西より)
- 図版24 金屋西遺跡B地点全景(東より)
金屋西遺跡B地点全景(西より)
- 図版25 B地点第1・7・8・9・12・
13・14号土壌
B地点第2・3号土壌
- 図版26 B地点第4・5号土壌
B地点第7号土壌
- 図版27 B地点第10号土壌
B地点第11号土壌
- 図版28 B地点第15号土壌
B地点第1号溝跡
- 図版29 B地点出土遺物(1)
- 図版30 B地点出土遺物(2)
- 図版31 B地点調査区内出土鉄滓
金屋西遺跡B地点の現況(南よ
り)



第1圖 金屋西遺跡位置圖

I 発掘調査に至る経緯

1 A地点の発掘調査の経緯

平成7年5月12日、児玉町大字金屋字西215-6番地の土地に、株式会社倉林の事務所建設の設計・施工を請け負った小林建設より、同地内における埋蔵文化財の所在について、児玉町教育委員会に照会があった。

児玉町教育委員会では、早々に照会のあった開発予定地を「遺跡分布地図」と照合したところ、周知の埋蔵文化財包蔵地である児玉町No74遺跡の範囲内に位置していた。そのため、開発予定地内には埋蔵文化財の所在が十分考えられたため、その所在については試掘調査によって明確にする必要があることを回答した。その後、6月28日に開発予定地内の試掘調査を実施したところ、ほぼ全域から中近世を主体とする多数の土壌が確認され、開発予定地内における埋蔵文化財の所在が明確になったため、やむをえず現状変更する場合は、開発に先立って町教育委員会とその取り扱いについて協議するよう回答した。

そして、施工主と町教育委員会が開発予定地内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについて協議を重ねた結果、すでに工事計画が進行しており、現状で保存することが極めて困難であることから、やむをえず発掘調査を実施して記録保存の措置をとることになった。発掘調査の実施にあたっては、株式会社倉林と児玉町遺跡調査会の間で、発掘調査に関する委託契約を締結し、平成7年9月25日より現地における発掘調査が実施された。

発掘調査に関わる届出は、平成7年9月22日に児玉町遺跡調査会会長富丘文雄より「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、同じく株式会社倉林代表取締役倉林修司氏より「埋蔵文化財発掘の届出について」が、児玉町教育委員会と埼玉県教育委員会を経て、文化庁長官に提出された。なお、これらの届出に対して埼玉県教育委員会からは、平成7年10月31日付け教文第2-137号による「埋蔵文化財の発掘調査について」が児玉町遺跡調査会に、同日付け教文第3-393号による「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」が株式会社倉林に対して通知されている。



2 B地点の発掘調査の経緯

平成13年4月9日、児玉町大字金屋字西210-8番地の土地に、アパートの建設を計画している倉林アイ子氏より、同地内における埋蔵文化財の所在について、児玉町教育委員会に照会があった。

児玉町教育委員会では、早々に照会のあった開発予定地を「遺跡分布地図」と照合したところ、周知の埋蔵文化財包蔵地である児玉町No74遺跡の範囲内に位置していた。そのため、開発予定地内には埋蔵文化財の所在が十分考えられたため、その所在については試掘調査によって明確にする必要があることを回答した。その後、4月27日に開発予定地内の試掘調査を実施したところ、ほぼ全域から中近世の土壌を主体とする多数の遺構が確認され、開発予定地内における埋蔵文化財の所在が明確になったため、「現状変更しようとする場合は、埋蔵文化財の保存の措置について町教育委員会とその取り扱いについて協議するとともに、事前に文化財保護法第57条の2第1項、同法第99条第1項及び文化財保護法施行令第5条第2項の規定に基づく、埋蔵文化財発掘届を提出することが必要である」と、平成13年5月9日付け児教社第30号により回答した。

そして、試掘調査の結果をもとに、埋蔵文化財の保存の措置とその取り扱いについて協議を重ねた結果、盛土等により埋蔵文化財への影響が極めて軽微であると考えられる建物や駐車場の予定地については「工事立会」によって対応し、埋蔵文化財が破壊されると考えられる浄化槽部分（約20㎡）については記録保存のための発掘調査を実施することになった。発掘調査の実施にあたっては、倉林アイ子氏と児玉町遺跡調査会の間で、発掘調査に関する委託契約を締結し、平成13年9月25日より現地における発掘調査が実施された。

発掘調査に関わる届出については、平成13年8月27日に倉林アイ子氏より「埋蔵文化財発掘の届出について」が、同じく9月11日に児玉町遺跡調査会会長富丘文雄より「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、児玉町教育委員会を経て埼玉県教育委員会に提出された。なお、これらの届出に対して埼玉県教育委員会からは、平成13年10月4日付け教文第2-74号による「埋蔵文化財の発掘調査について」が児玉町遺跡調査会に、同日付け教文第3-549号による「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」が倉林アイ子氏に対して通知されている。



II 遺跡の地理的・歴史的環境

金屋西遺跡は、埼玉県の北西部に位置する児玉郡児玉町の大字金屋字西に所在し、JR八高線児玉駅の南西方向約1.2kmの標高115m前後を測る児玉丘陵上に立地している。この丘陵は、町の南側半分を占める上武山地から、八王子-高崎構造線を境にして、北東方向に半島状に幾筋も延びており、その広がり東西約3.5kmほどで、西は群馬県との県境をなす神流川によって画され、東は上武山地内より流れ出る小山川（旧身馴川）によって東側の松久丘陵と分離されている。児玉丘陵の北側には、低平で広大な本庄台地が広がり、その間には旧赤根川（現女堀川）や金鑽川などの中小河川によって開析された女堀川沖積低地が北東方向に向かって帯状に開けている。丘陵内には、狭く浅い小支谷が幾筋もあるが、それらはすべてこの女堀川沖積低地に向かって緩やかに蛇行しながら延びている。

本遺跡周辺の児玉丘陵上やその斜面下に広がる狭小な低台地上には、各時代にわたって数多くの遺跡が立地している。これらの遺跡は、部分的あるいは小規模ながらも発掘調査が実施されて、その内容の一部が明らかになっている遺跡も多い。それらは、縄文時代から平安時代のいわゆる古代以前の遺跡が主体的であるが、この中で縄文時代後期から弥生時代の遺跡は、他の時代に比べて概して遺跡数が少なく、古墳時代以降になって遺跡数が増加する傾向が見られる。

中世以降の遺跡は、古代以前の遺跡に比べると調査例が少なく、また調査面積が狭いことから現時点ではその性格や細かな時期が不明確なものも多いが、現在までのところ城館・屋敷・集落・寺院・墓地（供養地）などの可能性が高い遺跡が確認されている。城館跡や屋敷跡では、雉ヶ岡城跡・観音山遺跡（別所城跡）・篠城跡・真鏡寺館跡などがあり、上一之堰遺跡も館跡の可能性が推測されている（荒川1998）。集落は、十二天遺跡・長沖古墳群A区・枇杷橋遺跡D地点などがあるが、この中で枇杷橋遺跡D地点は、検出された建物の規模及び形態や出土遺物から、屋敷の可能性も考えられる。寺院の可能性が考えられるものには、瓦を出土した城内遺跡・真鏡寺館跡・元大師跡などがあり、ミカド遺跡もその可能性が高いとされている（荒川1998）。墓地（供養地）では、大量の板碑の出土で著名な田端中原遺跡があり、本遺跡や倉林東遺跡・倉林後B遺跡では、隅丸長方形や円形の土壇を主とする密集型の土壇墓群が検出されている。また、この他にも館や集落の廃絶後に、火葬墓や土壇墓が単体もしくは散在的に作られ、墓地となっている遺跡も見られる。これらの遺跡の多くは、中世後期以降を主体とするものであるが、近世以降になると、土壇や溝など個別的・単独的な遺構がわかる程度で、集落などの様相はほとんど不明確な状況である。

また、本遺跡が所在する大字金屋（旧金屋村）は、古くより鋳物の産地として知られており、当地内の発掘調査でも鉄滓が多く出土している。この鋳物師集団は、通称「金屋鋳物師」と呼ばれ、古くは中林家と倉林家の二家を中心とした鋳物師集団であったことが知られている。金屋鋳物師の活動は、現在のところ中世後半まで遡ることがわかっており、中世では戦国期の後北条氏の伝馬手形や武田家朱印状などの文書の他、長享2（1488）年銘を初めとする懸仏や釣口、近世では鉄燈籠・銅鐘・天水桶などの作品も北武蔵や西上野を中心とした地域の各地に残している。その他、鍋や釜などの日常生活用品なども生産し、その後昭和初期まで営業していたようである（児玉町1995）。



第2図 周辺の中世開墾遺跡(1)



第3図 周辺の中世関連遺跡(2)

周辺の中世関連遺跡一覧表

番	遺跡名・名称	備考・参考文献	番	遺跡名・名称	備考・参考文献
1	雉ヶ岡城跡	埼玉県教委(1968・1988)	31	真福寺	埼玉県教委(1992)、金鑽(1995)
2	小字「堀の内」	館跡推定地	32	金屋西遺跡	本報告
3	蔵屋敷	館跡推定地	33	天龍寺	埼玉県教委(1992)、金鑽(1995)
4	毛無し屋敷	恋河内(1995)	34	倉林東遺跡	町教委調査
5	伝東福寺	館跡・寺院推定地	35	倉林後B遺跡	町教委調査
6	蛭河氏館跡	菅谷(1981)	36	淵龍寺	埼玉県教委(1992)、金鑽(1995)
7	武井氏館跡	菅谷(1981)	37	円通寺	埼玉県(教委1992)、金鑽(1995)
8	城の内遺跡	恋河内(1997)	38	恵日寺	埼玉県教委(1992)、金鑽(1995)
9	小字「内出」	館跡推定地	39	浄眼寺	埼玉県教委(1992)、金鑽(1995)
10	壱丁田遺跡	恋河内(1998)	40	実相寺	埼玉県教委(1992)、金鑽(1995)
11	真鏡寺館跡	恋河内(1991)	41	玉蔵寺	埼玉県教委(1992)、金鑽(1995)
12	篠城跡	埼玉県(1968)	42	日輪寺	埼玉県教委(1992)、金鑽(1995)
13	観音山遺跡(別所城跡)	町教委調査	43	長福寺	埼玉県教委(1992)、美里町(1986)
14	中新里城跡	神川町(1989)	44	鷺山古墳火葬墓	平田(1989)
15	岡部屋敷跡	神川町(1989)	45	能淵寺	埼玉県教委(1992)、金鑽(1995)
16	北下原遺跡	金子(1998)	46	西養寺	埼玉県教委(1992)、金鑽(1995)
17	南街道遺跡	恋河内(1996)	47	長福寺	埼玉県教委(1992)、金鑽(1995)
18	浅見境北遺跡	恋河内(1997)	48	田端中原遺跡	徳山(1992)
19	日延遺跡	恋河内(1997・1999)	49	反り町遺跡	金子(1995)
20	ミカド遺跡	坂本(1981)	50	長慶寺	埼玉県教委(1992)、神川町(1989)
21	上一ノ堰遺跡	鈴木(1981)	51	光明寺	埼玉県教委(1992)、神川町(1989)
22	枇杷橋遺跡D地点	町教委調査	52	正來寺	埼玉県教委(1992)、金鑽(1995)
23	秋山大町遺跡	調査会調査	53	広木上宿遺跡	山本(1996)
24	女池遺跡	恋河内(2001)	54	常福寺	埼玉県教委(1992)、美里町(1986)
25	蛭川坊田遺跡	調査会調査	55	観音寺	埼玉県教委(1992)、金鑽(1995)
26	長沖古墳群A区	君島(1999)	56	長泉寺	埼玉県教委(1992)、金鑽(1995)
27	水殿瓦窯跡	丸山(1990)	57	普賢寺	埼玉県教委(1992)、金鑽(1995)
28	龍台寺	埼玉県教委(1992)、金鑽(1995)	58	玉蓮寺	埼玉県教委(1992)、金鑽(1995)
29	東福寺	埼玉県教委(1992)、金鑽(1995)	59	元大師跡	栗岡(1996)
30	法養寺	埼玉県教委(1992)、金鑽(1995)			

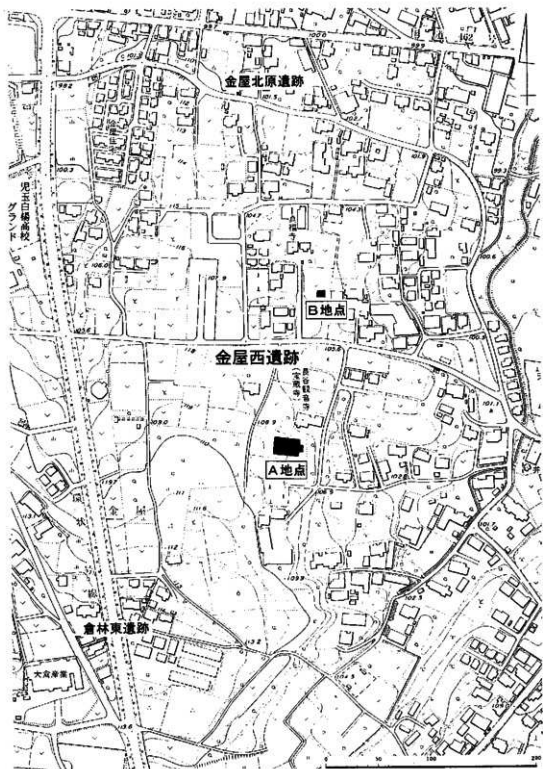
Ⅲ 金屋西遺跡の概要

金屋西遺跡は、児玉丘陵の標高115m前後を測るほぼ南北方向に延びる狭く平坦な小支丘上に立地している。本遺跡の立地する小支丘は、地形的には北側に向かって緩やかに傾斜し、南から東側にかけては狭くやや深い谷が、西側には現在の環状1号線の位置にやや広く浅い谷が南北方向に入り込んでおり、それらの小支谷によって隣接する他の小支丘と分離されている。

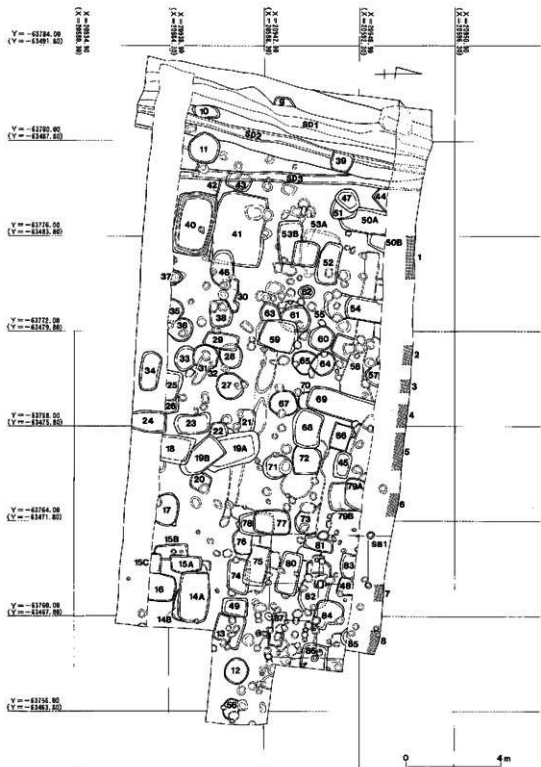
本遺跡は、本書で報告されているように、現在までにA地点とB地点の2箇所が発掘調査されている。いずれも比較的小規模な地点的調査であるため、これらの調査成果から本遺跡の具体的な様相を窺い知るには未だ不十分であると言わざるおえないが、A地点は現在児玉三十三霊場の8番寺になっている真言宗寺院の長谷観音寺(宝蔵寺)の南側隣接地であり、B地点はその北側約140mに位置する同じく真言宗寺院の金屋山真福寺の南側隣接地であることから、両地点から検出された中近世の遺構の多くが、それらの寺の存在と何だかの強い関係性を有するものであろうことは容易に想像できよう。

A地点の調査で検出された遺構は、掘立柱建物跡1棟、土壇94基、溝跡3条である。掘立柱建物跡については、本文中でも述べているように、発掘調査の段階では認識されていなかったが、建物跡の可能性も考えられることから、今回あえて提示したものである。建物跡は、重複する土壇を切っており、時期的には16世紀以降のものと考えられるが、あるいは寺院に関係する建物であったかもしれない。土壇は、調査区内のほぼ全域から激しく重複して検出されているが、西側の第1号溝跡と第2号溝跡の近くではそれらの分布密度が低く少なくなるようである。時期は、14世紀代の古瀬戸中期様式の陶器片が少量見られるものの、主体は16世紀～18世紀後半である。形態は、円形・楕円形・長方形・隅丸長方形・不整形など様々であるが、この中で長方形や隅丸長方形のものは、その長軸を東西方向か南北方向のどちらかに向けているものがほとんどで、その配置には規則性が認められる。これらの土壇は、骨片・古銭・五輪塔などの出土遺物や覆土の状態から、その大半は墓壇と推測されるが、土葬がほとんどで火葬墓は検出されていない。溝跡は、いずれも調査区の西端に位置する。この中で同一溝の掘り返しと考えられる第1号溝跡と第2号溝跡は、その掘削時期は不明ながら、長方形や隅丸長方形を呈する土壇群と重複せずにその軸方向が直行もしくは平行していることから、おそらく墓域か寺域の内外を区画する目的の溝と推測される。

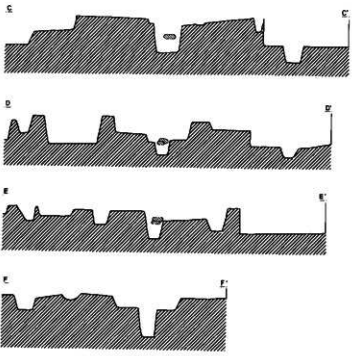
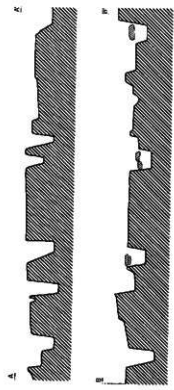
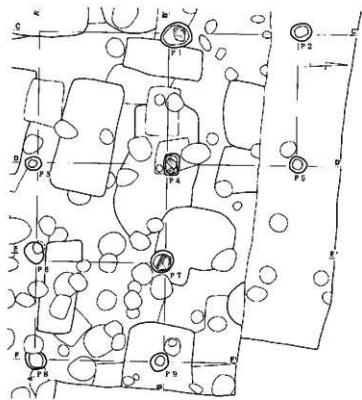
B地点の調査で検出された遺構は、掘立柱建物跡1棟、土壇17基、溝跡1条である。掘立柱建物跡は、平安時代前期頃のものである。隣接する金屋北原遺跡や倉林東遺跡では、該期の遺構が見られないことから、本遺跡において小規模ながら古代集落の存在が認められたことは重要である。土壇は、A地点と同様に16世紀～18世紀のものが主体である。出土遺物は貧弱ながら、土壇の形態や軸方向の規則性も比較的A地点の土壇群と類似することや、18世紀後半頃の第2号土壇のように、桶形の座棺を埋納したと考えられるものが見られることから、その多くは土壇墓と推測され、A地点と同様に寺院に接して墓域を形成していたものと思われる。溝跡は、A軽石降下以前の16世紀初頭頃に遡る可能性があるもので、調査区内の東端に位置する。何度か掘り返しが見られ継続的に維持管理されていた形跡が窺えるが、その性格は不明である。



第4図 金屋西遺跡A・B地点位置図



第5図 金屋西遺跡A地点全体図



第6圖 第1号掘立柱建物跡

IV A地点の発掘調査

1 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡（第6図）

調査区内の北東端に位置し、重複する第81号土壇・第82号土壇・第84号土壇・第86号土壇を切っている。本建物跡は、発掘調査の段階では建物跡として認識されていなかったが、柱の礎石もしくは根固めに使用されたと思われる比較的大きな自然石を伴う柱穴状のピットがほぼ直線上に3箇所（P1・P4・P7）並び、それに対応するように配置される柱穴状のピットが周囲に複数（P2・P3・P5・P6・P8・P9）見られることから、建物跡の可能性が考えられるため、本報告において提示したものである。

本建物跡の形態は、机上の推測によると、東西方向が3間、南北方向が2間以上の建物のようで、建物の北側はさらに調査区外に延びる可能性がある。規模は、東西方向が約5.20m、南北方向は5m以上あるものと推測される。建物の長軸方向は、ほぼ南北方向に向いている。

柱心間は、南北方向の2間はいずれも1間2mのほぼ等間隔であるが、東西方向の3間は西から2m・1.60m・1.60mで不揃いである。東西・南北両方向とも柱通りは比較的良好。柱穴は、規模が26cm～50cmで、円形・楕円形・長方形と多様な形態を呈している。確認面からの深さは60cm前後の比較的深いものが主体であるが、建物の南端の柱穴列（P3・P6・P8）は25cm～40cm程度で、他の柱穴に比べてやや浅くなっている。遺物は、何も出土しなかったようである。

本建物跡の時期は、遺物が何も出土していないため明確にできないが、遺構の重複関係からは、16世紀以降の所産と推測される。

2 土壇

土壇は、調査区内のほぼ全域から、全部で94基以上が検出されている（第6～12図）。時期は、概ね中世後半～近現代の比較的最長期間にわたるもので、土壇同士の重複はかなり激しい。それらの性格や細かな時期については、明確にできないものが大半であるが、個々の概要については以下の一覧表に記載したとおりである。

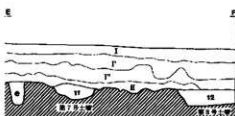
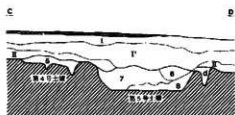
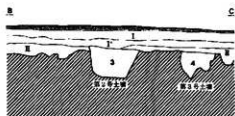
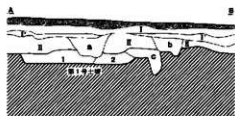
土壇一覧表

規模・深さの単位はcm、（ ）は推定

土壇番号	平面形	規模	深さ	出土遺物	備考
1号土壇	不明	不明	22		
2号土壇	不明	不明	47		
3号土壇	不明	不明	42		
4号土壇	不明	不明	24		
5号土壇	不明	不明	40		
6号土壇	不明	不明	38		
7号土壇	不明	不明	24		
8号土壇	不明	不明	25		
9号土壇	不明	不明	16		1溝に切られる。

10号土壌	楕円形	118×-	13		1溝と2溝に切られる。
11号土壌	円形	132×128	20	小形柱状砥石破片	
12号土壌	円形	104×109	5		
13号土壌	長方形	120×146	16	古銭(祥符元宝)1、鉄滓(少)、	49土壌に切られる。
14A号土壌	隅丸長方形	130×216	45	内耳鍋・土師器皿破片、鉄滓(少)、	14B・15A土壌を切る。
14B号土壌	不明	不明	8		14A土壌に切られる。
15A号土壌	長方形	133×78	24	鉢破片、	15B土壌を切り、14A土壌に切られる。
15B号土壌	長方形	142×64	18		15A・15C土壌に切られる。
15C号土壌	不明	-×85	12		15B・16土壌を切る。
16号土壌	(長方形)	-×120	13	内耳鍋・土師器皿破片、鉄滓(少)、	15C土壌に切られる。
17号土壌	不整円形	-×140	11		
18号土壌	(長方形)	-×120	38	鉄滓(少)、	19B土壌を切る。
19A号土壌	隅丸長方形	-×138	40	内耳鍋・土師器皿破片、	21・22土壌を切り、19B土壌に切られる。
19B号土壌	不整長方形	200×106	36		19A・20・22土壌を切り、18土壌に切られる。
20号土壌	方形	85×80	10	鉄滓(少)、	19B土壌に切られる。
21号土壌	(長方形)	68×-	11		19A土壌に切られる。
22号土壌	不明	80×-	33	内耳鍋・土師器皿破片、	19A・19B土壌に切られる。
23号土壌	隅丸長方形	152×86	54	摺鉢・内耳鍋・土師器皿破片、	
24号土壌	(長方形)	-×92	58		南側は調査区外。
25号土壌	不明	-×130	22		26土壌を切る。南側は調査区外。
26号土壌	不明	不明	16		25土壌に切られる。南側は調査区外。
27号土壌	円形	113×114	25		
28号土壌	不整円形	96×106	23	土師器皿破片、	29土壌に切られる。
29号土壌	隅丸長方形	144×70	18		28土壌を切る。
30号土壌	不明	42×140	11	土師器皿破片、	38土壌に切られる。
31号土壌	不整形	54×130	3		32土壌を切る。
32号土壌	不整円形	107×98	17		33土壌を切り、31土壌に切られる。
33号土壌	不整円形	94×108	12		32土壌に切られる。
34号土壌	隅丸長方形	85×170	11		
35号土壌	不明	不明	16		36土壌を切る。南側は調査区外。
36号土壌	不整円形	104×-	18		35土壌に切られる。
37号土壌	不明	-×66	22		南側は調査区外。
38号土壌	隅丸長方形	94×118	26		30土壌を切る。
39号土壌	方形	93×80	60		2溝を切る。
40号土壌	長方形	168×268	46	内耳鍋・片口鉢破片、	41土壌に切られる。各壁下には壁溝状の浅い溝が巡る。
41号土壌	長方形	214×308	30	碗・鉢・瀬戸系御皿・内耳鍋・片口鉢・土師器皿破片、鉄滓(少)、	40土壌を切り、46土壌に切られる。
42号土壌	不明	76×-	12		40・41・43土壌に切られる。
43号土壌	隅丸長方形	107×76	17	内耳鍋破片、古銭(天聖元宝・元豊通宝・元祐通宝・永樂通宝)4、	42土壌を切る。
44号土壌	不明	不明	12		北側は調査区外。
45号土壌	隅丸長方形	72×112	23		
46号土壌	隅丸長方形	97×150	12		41土壌を切る。
47号土壌	不整形	103×87	54	土師器皿破片、鉄滓(多)、	51土壌を切る。
48号土壌	不明	-×76	15		83土壌に切られる。
49号土壌	長方形	110×78	16		13土壌を切る。
50A号土壌	隅丸長方形	-×107	34	火鉢破片、	50B土壌を切り、47・51土壌に切られる。

50B号土壌	不明	不明	20		50A土壌に切られる。
51号土壌	不明	62×-	42		50A土壌を切り、47土壌に切られる。
52号土壌	不整長方形	94×184	17		53A土壌に切られる。
53A号土壌	方形	106×108	22		52・53B土壌を切る。
53B号土壌	長方形	105×188	27		53A土壌に切られる。
54号土壌	(隅丸長方形)	-×95	18	内耳鍋・土師器皿破片、	55土壌を切る。
55号土壌	不明	-×117	11	土師器皿破片、鉄滓(少)、	54土壌に切られる。
56号土壌	不整円形	65×88	4		
57号土壌	不明	不明	24	常滑甕破片	北側は調査区外。
58号土壌	(長方形)	-×100	12		底面に黒色有機物層が薄く被覆。
59号土壌	不整長方形	160×138	31	土師器皿破片、鉄滓(少)、	61・63土壌を切る。
60号土壌	不整円形	116×100	22	土師器皿破片、	底面に黒色有機物層が薄く被覆。
61号土壌	不整円形	130×110	48	内耳鍋・土師器皿破片、鉄滓(少)、	59土壌に切られる。
62号土壌	楕円形	69×58	18		
63号土壌	(楕円形)	85×-	11	土師器皿破片、	59土壌に切られる。底面に黒色有機物層が薄く被覆。
64号土壌	不整形	105×90	16		65土壌を切る。底面に黒色有機物層が薄く被覆。
65号土壌	不整円形	107×103	33	古銭(永來通宝)2、	64土壌に切られる。底面に黒色有機物層が薄く被覆。
66号土壌	長方形	85×113	23	内耳鍋、土師器皿破片、鉄滓(少)、	
67号土壌	不整円形	121×107	31	土師器皿破片、鉄滓(少)、	
68号土壌	不整長方形	128×168	28	土師器皿破片、	72土壌を切る。
69号土壌	(隅丸長方形)	-×111	30	古銭(皇宋通宝・紹聖元宝・洪武通宝・永來通宝)6、骨片、石器、	70土壌を切る。
70号土壌	不明	不明	10		69土壌に切られる。
71号土壌	不整円形	120×103	15	内耳鍋破片、	
72号土壌	不整形	121×-	11	内耳鍋・土師器皿破片、鉄滓(少)、	68土壌に切られる。
73号土壌	不明	-×114	14	擂鉢・内耳鍋・土師器皿破片、鉄滓(少)、	
74号土壌	不整長方形	95×148	63	粉挽白(下白)破片、	75土壌に切られる。
75号土壌	長方形	94×170	38	擂鉢・内耳鍋・土師器皿・五輪塔(火輪)破片、鉄滓(少)、	74土壌を切る。
76号土壌	不整形	80×-	42	常滑甕・内耳鍋・土師器皿破片、磁石、鉄滓(破片)、	78土壌に切られる。
77号土壌	隅丸長方形	156×110	30	陶器広口壺・内耳鍋・土師器皿・粉挽白(上白)破片、	78土壌を切る。
78号土壌	隅丸長方形	146×102	52		76土壌を切り、77土壌に切られる。
79A号土壌	不明	-×136	37	内耳鍋・土師器皿・常滑甕破片、鉄滓(少)	79B土壌を切る。
79B号土壌	(不整長方形)	-×122	40	内耳鍋破片、	79A土壌に切られる。
80号土壌	長方形	90×180	45	陶器広口壺・内耳鍋・土師器皿破片、	
81号土壌	長方形	125×58	38		
82号土壌	不整形	122×220	30	内耳鍋・擂鉢・土師器皿破片、鉄滓(少)、	84土壌に切られる。
83号土壌	不明	-×105	47	鉢・土師器皿・片口鉢破片、	48土壌を切る。
84号土壌	不整形	120×128	20		82土壌を切る。
85号土壌	不明	不明	18		
86号土壌	(隅丸長方形)	113×-	22		東側は調査区外。
87号土壌	長方形	58×150	18		



0 2m

第7図 土 壌 (1)

第1～8号土壌土層説明

第I～I'層：現耕作土（A軽石を含む）。

第II層：旧耕作土（旧表土）。

第a層：暗茶褐色土層（A軽石を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第b層：暗茶褐色土層（ロームブロックを均一に、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第c層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第d層：暗茶褐色皮層（ローム粒子を多量に、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第e層：暗茶褐色土層（ローム粒子を多量に、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

<第1号土壌>

第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性・しまりともない。）

<第2号土壌>

第3層：暗黄茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）

<第3号土壌>

第4層：暗黄茶褐色土層（ローム粒子を多量に、ロームブロック・炭化粒子を微量に含む。粘性はなく、しまりを有する。）

<第4号土壌>

第5層：暗茶褐色皮層（ローム粒子を均一に、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

<第5号土壌>

第6層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第7層：暗茶褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第8層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

<第6号土壌>

第9層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）

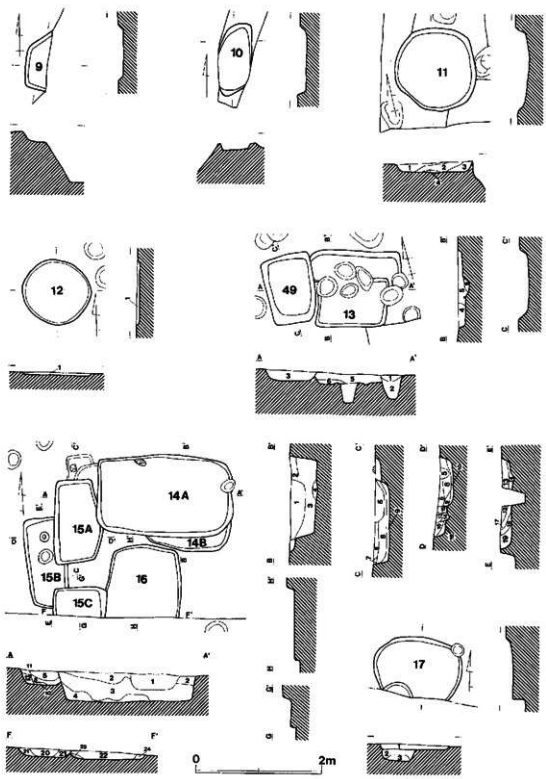
第10層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

<第7号土壌>

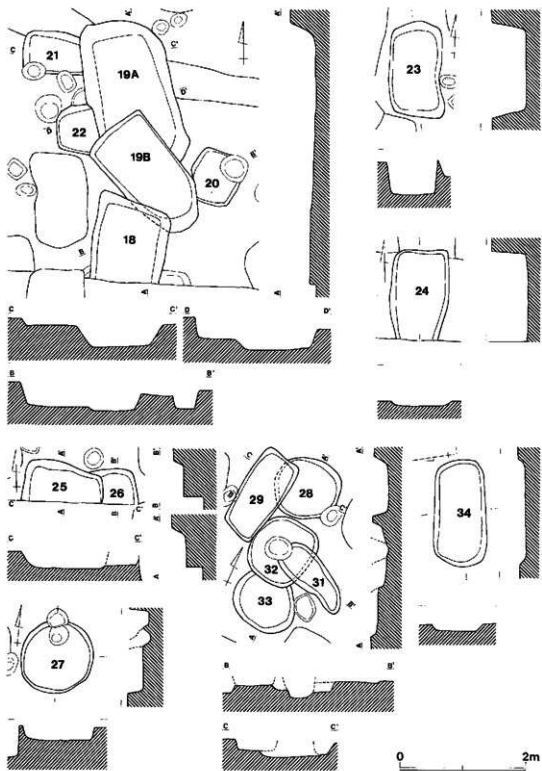
第11層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

<第8号土壌>

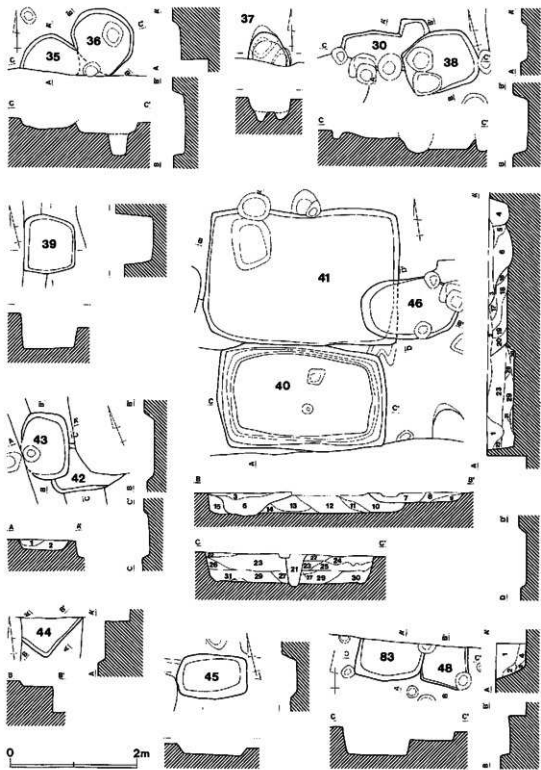
第12層：暗茶褐色土層（ロームブロックを均一に、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



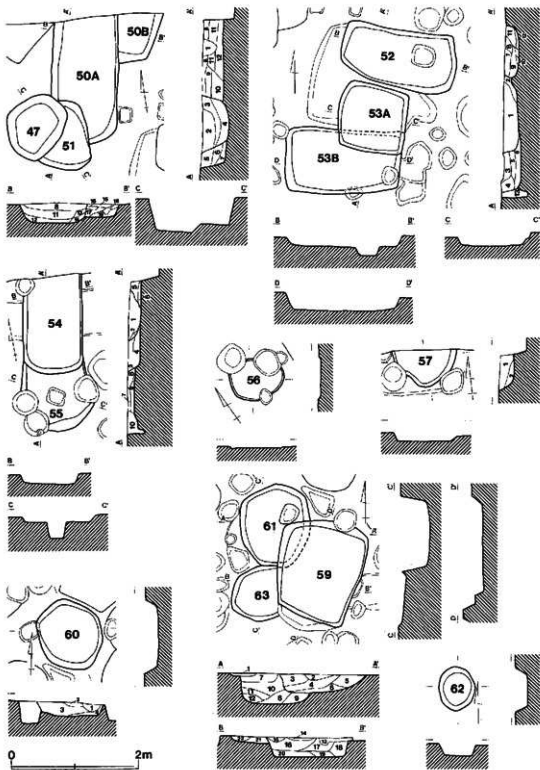
第8圖 土 壙 (2)



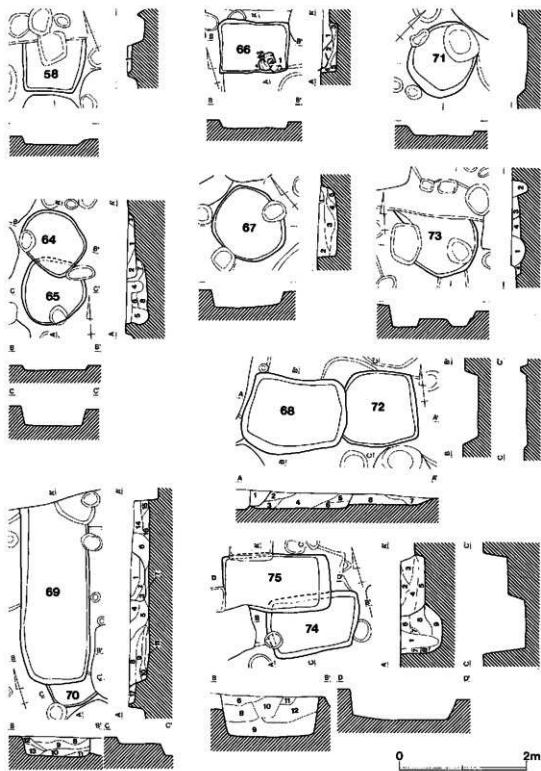
第9圖 土 墳 (3)



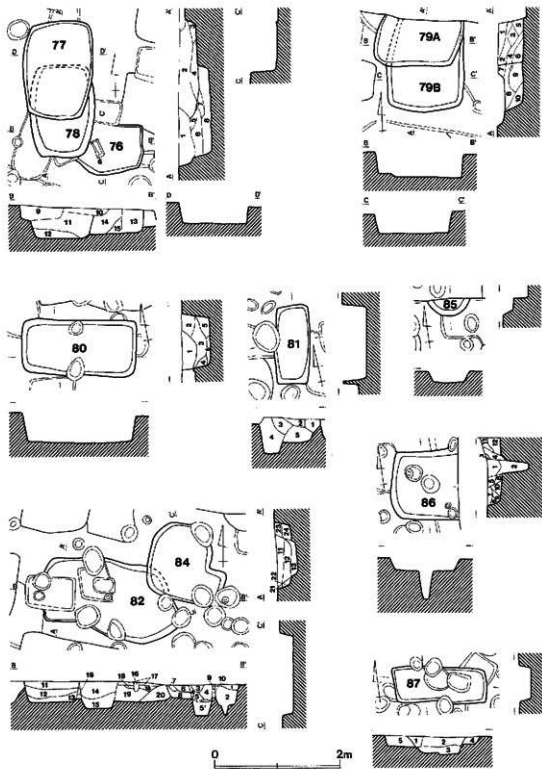
第10圖 土 墳 (4)



第11圖 土 墳 (5)



第12圖 土 墳 (6)



第13圖 土 坑 (7)

第11号土壌土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第12号土壌土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第13・49号土壌土層説明

<ビット>

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 - 第2層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量に、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりはない。）
- ##### <第49号土壌>
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- ##### <第13号土壌>
- 第4層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 - 第5層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 - 第6層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第14A・14B・15A・15B・15C・16号土壌土層説明

<第14A号土壌>

- 第1層：暗黄褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第2層：暗黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第3層：黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第15A号土壌>

- 第5層：暗黄褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第7層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第8層：暗黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第9層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第10層：暗黄褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第11層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第12層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第15B号土壌>

- 第13層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第14層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第15層：暗褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第16層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第17層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

- 第18層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第19層：暗黄褐色土層（ローム粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第15C号土壌>

- 第20層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第21層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第43号土壤層説明

- 第1層：暗褐色土層（第3号溝跡覆土。ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第2層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第47・50A・50B・51号土壤層説明

<ヒット>

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

<第47号土壤>

- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第3層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

<第51号土壤>

- 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第6層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
第7層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第50A号土壤>

- 第8層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
第9層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを中量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
第10層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第11層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを中量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
第12層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第13層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第14層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第50B号土壤>

- 第15層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
第16層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
第17層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第18層：暗褐色土層（ローム粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第19層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第52・53A・53B号土壤層説明

<第53A号土壤>

- 第1層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第2層：暗褐色土層（ローム粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第53B号土壤>

- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第4層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第5層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第6層：黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第52号土壤>

- 第7層：暗褐色土層（ローム粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第8層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第9層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第10層：明黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第11層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
第12層：明黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

<ビット>

第13層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第54・55号土壌土層説明

<第54号土壌>

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、A軽石・ロームブロックを中量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第55号土壌>

第7層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第8層：暗褐色土層（ローム粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第9層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<ビット>

第10層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、A軽石・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第57号土壌土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、A軽石・炭化粒子・ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、A軽石・ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第58号土壌土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第60号土壌土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗茶褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第59・61・63号土壌土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、炭化粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

<第59号土壌>

第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を中量、炭化粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを中量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：暗茶褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：暗茶褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第13層：暗茶褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを少量、A軽石を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第14層：暗黄茶褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量、A軽石・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第15層：暗茶褐色土層（ローム粒子を中量、A軽石を少量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第16層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第17層：暗黄茶褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

- 第18層：暗茶褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
第19層：暗茶褐色土層（ローム粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第20層：暗黄茶褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
＜第61号土壌＞
第7層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
第8層：暗黄褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第9層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
第10層：暗黄茶褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
第11層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
第12層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
＜第63号土壌＞
第21層：暗黄茶褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第22層：暗茶褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第64・65号土壌土層説明

＜第64号土壌＞

- 第1層：明茶褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第2層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子を多量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
＜第65号土壌＞
第4層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第5層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第6層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第7層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第8層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第66号土壌土層説明

- 第1層：明茶褐色土層（ローム粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第4層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第5層：黒褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第67号土壌土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第2層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第3層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第4層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを少量、炭化物ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第5層：暗黄茶褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第68・72号土壌土層説明

＜第68号土壌＞

- 第1層：暗黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第3層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第4層：明黄褐色土層（ローム粒子多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第5層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第72号土壌>

第7層：明灰色土層（A軽石を含む。粘性・しまりともない。）

第8層：明茶褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第69・70号土壌土層説明

<第69号土壌>

第1層：明灰色土層（ローム粒子を少量含む。粘性・しまりともない。）

第2層：明灰色土層（ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第3層：明灰色土層（ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第7層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第8層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第9層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第10層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第11層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第12層：黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第13層：暗茶褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第14層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第15層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第16層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第70号土壌>

第17層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第73号土壌土層説明

第1層：暗灰色土層（ローム粒子を含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗灰色土層（ローム粒子を含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗茶褐色土層（ローム粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第74・75号土壌土層説明

<ビット>

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第75号土壌>

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第74号土壌>

第6層：暗茶褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第7層：暗茶褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第8層：暗茶褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第9層：暗茶褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第10層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを中量、炭化物ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

- 第11層：暗茶褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第12層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第76・77・78号土壌土層説明

<第77号土壌>

- 第1層：明灰色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第4層：暗茶褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第78号土壌>

- 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第6層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第7層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第8層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第9層：明灰色土層（第1層と同じ。）
第10層：暗茶褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第11層：暗褐色土層（第6層と同じ。）
第12層：黄褐色土層（第8層と同じ。）

<第76号土壌>

- 第13層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第14層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第15層：暗茶褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第79A・79B号土壌土層説明

<第79A号土壌>

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第2層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第4層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第5層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第6層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第79B号土壌>

- 第7層：明灰色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第8層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第9層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第10層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第80号土壌土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを中量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第2層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第3層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第4層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
第5層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第6層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第81号土壌土層説明

- 第1層：明褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

- 第2層：明褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第3層：明褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第5層：明褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第82・84号土壌土層説明

<ビット>

- 第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：暗茶褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第5層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第84号土壌>

- 第6層：明褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第7層：明褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第8層：明褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第9層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第10層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<攪乱土壌>

- 第11層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを少量、A軽石・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第12層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第13層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第14層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第15層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第82号土壌>

- 第16層：茶褐色土層（ローム粒子微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第17層：明茶褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第18層：明茶褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第19層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第20層：茶褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第21層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第22層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第23層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第24層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第83号土壌土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを多量、炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを中量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第86号土壌土層説明

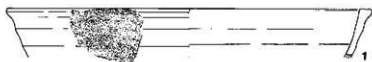
- 第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを中量、炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を中量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

- 第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子を中量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗茶褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗茶褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第6層：明茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第7層：暗茶褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを中量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第8層：暗茶褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第9層：暗茶褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第10層：暗茶褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第11層：暗茶褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第12層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを中量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第87号土壌土層説明

- 第1層：暗灰褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗灰褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを多量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗黄灰褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗灰褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：明褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを少量、焼土粒子・炭化物ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）





第14号土壤



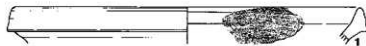
第15号土壤



第16号土壤



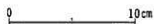
第22号土壤



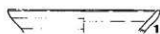
第23号土壤



第41号土壤



第14图 土壤出土遺物 (1)



第47号土境



第50号土境



第54号土境



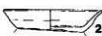
第55号土境



第59号土境



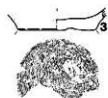
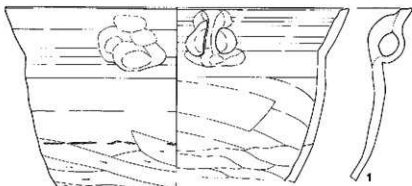
第60号土境



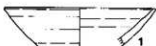
第61号土境



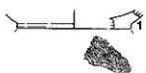
第63号土境



第66号土境



第67号土境



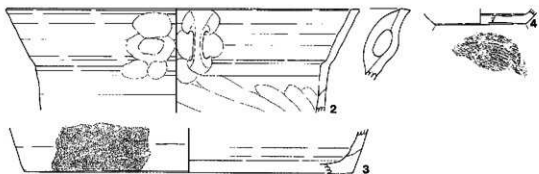
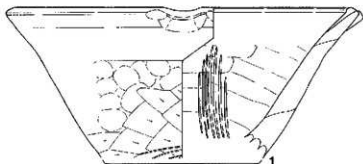
第68号土境



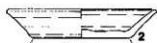
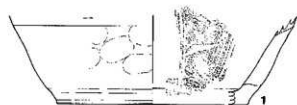
第15图 土境出土遺物 (2)



第72号土壤



第73号土壤



第75号土壤



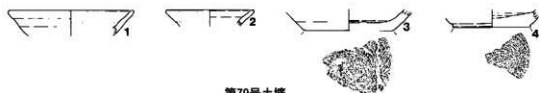
第16图 土壤出土遺物 (3)



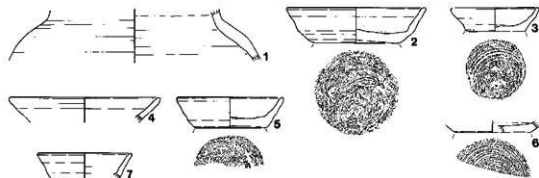
第76号土壤



第77号土壤



第79号土壤

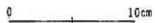


第80号土壤

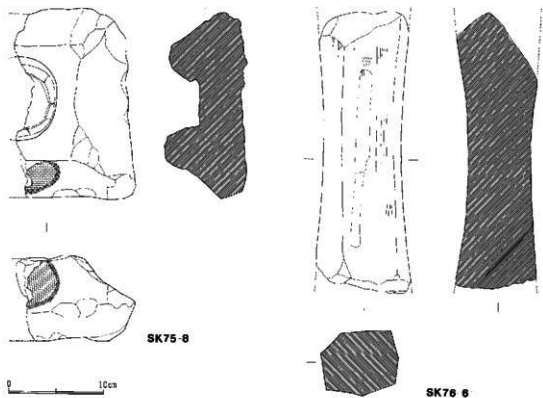
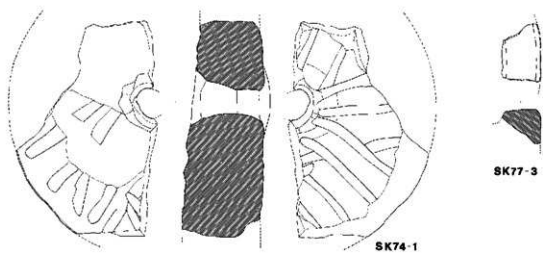


第82号土壤

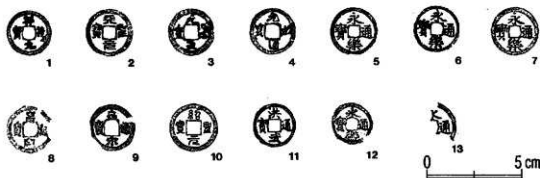
第83号土壤



第17图 土壤出土物 (4)



第18圖 土城出土石製品



第19図 土坑出土古銭

第14号土坑出土遺物観察表

1	内耳銅	A. 口縁径(29.0)。B. 粘土総積み上げ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一黒褐色。F. 口縁部小破片。G. 覆土中。H. 口縁部外面煤付着。
---	-----	--

第15号土坑出土遺物観察表

1	鉢	A. 底部径(16.0)。B. 粘土総積み上げ成形。C. 胴部外面指押さえの淺ナデ、内面ナデ。底部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡橙褐色。F. 破片。G. 覆土中。H. 胴部外面煤付着。
2	内耳銅	B. 粘土総積み上げ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一暗赤褐色、内一灰褐色。F. 底部破片。G. 覆土中。H. 外面煤付着。

第16号土坑出土遺物観察表

1	土師器 皿	A. 底部径(6.8)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一淡橙褐色。F. 底部1/6破片。G. 覆土中。
2	土師器 皿	A. 底部径(7.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 白色粒。E. 内外一茶褐色。F. 底部1/4破片。G. 覆土中。
3	土師器 皿	A. 底部径(4.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 赤色粒、黒色粒、白色粒。E. 内外一橙褐色。F. 底部1/4破片。G. 覆土中。

第22号土坑出土遺物観察表

1	土師器 皿	A. 口縁径(10.0)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 赤色粒、黒色粒、白色粒。E. 内外一淡橙褐色。F. 口縁部小破片。G. 覆土中。
---	----------	---

第23号土坑出土遺物観察表

1	播鉢	A. 口縁径(27.6)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒。E. 内外一暗褐色、肉一淡褐色。F. 口縁部小破片。G. 覆土中。H. 内面に播目あり。瀬戸美濃系。
2	土師器 皿	A. 底部径(5.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一淡橙褐色、肉一黒色。F. 底部1/3破片。G. 覆土中。H. 内面煤付着。

第41号土坑出土遺物観察表

1	碗	A. 口縁径8.6、器高5.6、高台部径4.6。B. ロクロ成形。高台部削り出し。C. 体部内外面回転ナデ。高台部外面ケズリ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一淡黄白色。F. ほぼ完形。G. 覆土中。H. 内外面施釉。体部下半に4箇所トチン痕あり。京焼(信楽)系。
2	古瀬戸 小皿	A. 底部径6.0。B. ロクロ成形。C. 底部内面回転ナデ、外面回転系切り。D. 白色粒。E. 内外一灰白色。F. 底部1/2破片。G. 覆土中。H. 内外面煤付着。内面は淡緑色釉がかかる。
3	古瀬戸 卸皿	A. 口縁径(13.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一淡黄褐色。F. 口縁部小破片。G. 覆土中。H. 口縁部内外面に淡緑色釉を施す。内面に格子状の卸目。
4	片口鉢	B. 粘土総積み上げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色、肉一黒褐色。F. 口縁部破片。G. 覆土中。

5	土師器 皿	A. 底部径 (5.0)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 底部1/4破片。G. 覆土中。
---	----------	---

第47号土坑出土遺物観察表

1	土師器 皿	A. 口縁部径 (12.0)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 口縁部小1/3破片。G. 覆土中。H. 内面煤付着。
2	土師器 皿	A. 底部径 (5.0)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 底部1/5破片。G. 覆土中。

第50号土坑出土遺物観察表

1	火鉢	B. 粘土紐積み上げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-淡灰褐色。F. 口縁部小破片。G. 覆土中。H. 胴部外面に押印文。
---	----	--

第54号土坑出土遺物観察表

1	土師器 皿	A. 底部径 (7.0)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 底部1/4破片。G. 覆土中。
---	----------	---

第55号土坑出土遺物観察表

1	土師器 皿	A. 底部径 (6.0)。B. ロクロ成形。C. 底部外面回転系切り、内面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 底部1/5破片。G. 覆土中。H. 底部外縁は良く擦れて摩滅している。
---	----------	---

第59号土坑出土遺物観察表

1	土師器 皿	A. 底部径 (6.0)。B. ロクロ成形。C. 底部外面回転系切り、内面回転ナデ。D. 赤色粒、黒色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 底部1/4破片。G. 覆土中。
---	----------	---

第60号土坑出土遺物観察表

1	土師器 皿	A. 底部径 (5.0)。B. ロクロ成形。C. 底部外面回転系切り、内面回転ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 底部1/2破片。G. 覆土中。
---	----------	---

第61号土坑出土遺物観察表

1	土師器 皿	A. 口縁部径 (14.0)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 口縁部小破片。G. 覆土中。
2	土師器 皿	A. 口縁部径 7.8。器高1.6。底部径5.3。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 3/4。G. 覆土中。H. 口唇部煤付着。
3	土師器 皿	A. 底部径 (6.8)。B. ロクロ成形。C. 底部外面回転系切り。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 底部1/6破片。G. 覆土中。

第63号土坑出土遺物観察表

1	土師器 皿	A. 底部径 (7.0)。B. ロクロ成形。C. 底部外面回転系切り、内面回転ナデ。D. 白色粒。E. 外-暗灰褐色、内-暗褐色。F. 底部1/4破片。G. 覆土中。
---	----------	---

第66号土坑出土遺物観察表

1	内耳鍋	A. 口縁部径27.2。残存高14.2。B. 粘土紐積み上げ成形。内耳貼り付け。C. 口縁部内外面回転ナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ。内面麓ナデの後下半指ナデ。D. 白色粒。E. 内外-黒褐色。肉-茶褐色。F. 底部欠失。G. 覆土中。H. 外面煤付着。内耳は1対。
2	土師器 皿	A. 口縁部径 (11.0)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 口縁部小破片。G. 覆土中。
3	土師器 皿	A. 底部径 (6.2)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 白色粒。E. 内外-暗褐色、肉-黒褐色。F. 底部2/3破片。G. 覆土中。
4	土師器 皿	A. 底部径 (5.0)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-淡褐色、内-黒色。F. 底部小破片。G. 覆土中。

第67号土坑出土遺物観察表

1	土師器 皿	A. 口縁部径 (12.0)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-淡黄褐色。F. 口縁部1/8破片。G. 覆土中。
2	土師器 皿	A. 口縁部径 (6.6)。器高1.8。底部径 (5.0)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 白色粒。E. 内外-黒褐色。F. 1/4。G. 覆土中。

第68号土坑出土遺物観察表

1	土師器 皿	A. 底部径 (9.0)。B. ロクロ成形。C. 底部外面回転系切り、内面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-淡黄褐色。F. 底部1/6破片。G. 覆土中。
---	----------	--

第72号土坑出土遺物観察表

1	土師器 皿	A. 口縁部径 (11.3)。器高2.4。底部径 (7.6)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 1/4。G. 覆土中。H. 内外面煤付着。
2	土師器 皿	A. 底部径 (7.0)。B. ロクロ成形。C. 底部外面回転系切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 底部小破片。G. 覆土中。
3	土師器 皿	A. 底部径 (9.0)。B. ロクロ成形。C. 底部外面回転系切り。D. 白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 底部1/5破片。G. 覆土中。

第73号土坑出土遺物観察表

1	播 鉢	A. 口縁部径 (28.0)。残存高 (11.9)。B. 粘土紐積み上げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面雑なナデの後下半ケズリ、内面指ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 1/8。G. 覆土中。H. 胴部内面に太い7本歯の櫛歯状工具による播り目を荒く施す。
2	内 耳 鍋	A. 口縁部径 (28.0)。B. 粘土紐積み上げ成形。内耳貼り付け。C. 口縁部内外面回転ナデ。胴部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-暗茶褐色。内-灰褐色。肉-淡褐色。F. 口縁部1/6破片。G. 覆土中。H. 外面煤付着。
3	内 耳 鍋	A. 底部径 (26.0)。B. 粘土紐積み上げ成形。C. 胴部及び底部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-黒褐色。内-明茶褐色。F. 底部小破片。G. 覆土中。H. 外面煤付着。
4	土師器 皿	A. 底部径 (7.0)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡茶褐色。内-暗褐色。F. 底部1/3破片。G. 覆土中。

第75号土坑出土遺物観察表

1	播 鉢	A. 底部径 (15.2)。B. 粘土紐積み上げ成形。C. 胴部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡黄茶褐色。内-黒褐色。F. 底部1/8破片。G. 覆土中。H. 胴部内面に6本歯以上の櫛歯状工具による播り目を荒く施す。
2	土師器 皿	A. 口縁部径 (11.8)。器高2.3。底部径7.6。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 4/5。G. 覆土中。H. 内外面煤付着。
3	土師器 皿	A. 口縁部径 (12.4)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 口縁部1/8破片。G. 覆土中。H. 内外面煤付着。
4	土師器 皿	A. 口縁部径 (7.0)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 口縁部1/6破片。G. 覆土中。
5	土師器 皿	A. 底部径 (5.0)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 底部1/6破片。G. 覆土中。
6	土師器 皿	A. 底部径 (6.0)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 底部1/6破片。G. 覆土中。
7	内 耳 鍋	B. 粘土紐積み上げ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 外-黒灰色。内-暗灰色。F. 口縁部小破片。G. 覆土中。

第76号土坑出土遺物観察表

1	内 耳 鍋	B. 粘土紐積み上げ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-黒灰色。F. 口縁部小破片。G. 覆土中。H. 外面に煤付着。
2	内 耳 鍋	B. 粘土紐積み上げ成形。C. 胴部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-黒褐色。内-暗褐色。F. 底部小破片。G. 覆土中。

3	土師器 皿	A. 口縁部径 (8.2)、器高2.2、底部径 (5.0)。B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 1/4。G. 覆土中。H. 内面煤付着。
4	土師器 皿	A. 口縁部径 (7.6)、器高1.9、底部径 (4.8)。B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 1/5。G. 覆土中。
5	土師器 皿	A. 底部径 (5.0)。B. ロク口成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 底部1/4破片。G. 覆土中。

第77号土坑出土遺物観察表

1	古瀬戸 不明	B. 粘土組織み上げ成形。C. 胴部内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-黒褐色、内-淡灰色。F. 胴部小破片。G. 覆土中。H. 外面には鉄軸が施され、内面には淡緑色の自然釉がかかる。
2	内耳鍋	A. 底部径 (16.0)。B. 粘土組織み上げ成形。C. 胴部内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-黒褐色、内-暗灰褐色。F. 底部1/8破片。G. 覆土中。

第79号土坑出土遺物観察表

1	土師器 皿	A. 口縁部径 (10.0)。B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部1/10破片。G. 覆土中。
2	土師器 皿	A. 口縁部径 (7.0)。B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-黒褐色。F. 口縁部1/6破片。G. 覆土中。
3	土師器 皿	A. 底部径 (7.0)。B. ロク口成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 底部1/3破片。G. 覆土中。H. 底部内面に煤付着。
4	土師器 皿	A. 底部径 (6.0)。B. ロク口成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 底部1/4破片。G. 覆土中。

第80号土坑出土遺物観察表

1	古瀬戸 広口壺	B. 粘土組織み上げ成形。C. 頸部及び胴部内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-黒褐色、内-淡灰褐色。F. 胴部小破片。G. 覆土中。H. 胴部外面及び頸部内面に鉄軸が施されている。
2	土師器 皿	A. 口縁部径 (11.0)、器高2.9、底部径6.8。B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 1/2。G. 覆土中。H. 内面煤付着。
3	土師器 皿	A. 口縁部径 (7.0)、器高1.9、底部径4.3。B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 完形。G. 覆土中。H. 口唇部の一部に煤付着。
4	土師器 皿	A. 口縁部径 (12.0)。B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 口縁部1/8破片。G. 覆土中。
5	土師器 皿	A. 口縁部径 (8.4)、器高2.4、底部径 (5.6)。B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 1/2。G. 覆土中。H. 内外面煤付着。
6	土師器 皿	A. 底部径 (6.0)。B. ロク口成形。C. 底部外面回転系切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 底部1/2破片。G. 覆土中。
7	土師器 皿	A. 口縁部径 (7.4)。B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部1/4破片。G. 覆土中。

第82号土坑出土遺物観察表

1	土師器 皿	A. 口縁部径 (12.0)。B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-黒褐色。F. 口縁部1/12破片。G. 覆土中。
2	土師器 皿	A. 口縁部径 (12.0)。B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 口縁部1/8破片。G. 覆土中。

第83号土坑出土遺物観察表

1	鉢	B. 粘土組織み上げ成形。C. 胴部外面下半ケズリ、内面ナデ。底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 底部小破片。G. 覆土中。
2	土師器 皿	A. 底部径 (7.0)。B. ロク口成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 底部小破片。G. 覆土中。

土壌出土石製品観察表

SK74 1	粉挽き白 (下 白)	A. 直径 (33.0)、高さ9.2。C. 側面は雑な研磨。底面には放射状に太く浅い溝が見られる。D. 砂岩。F. 約1/4。G. 覆土中。H. 目は6分画と推定され、かなり磨り減って摩滅している。上面の一部は焼けて赤色化している。
SK75 8	五輪塔 (火輪)	A. 幅20.0、高さ9.0。C. 表面は各面とも削りの後研磨。D. 角閃石安山岩。F. 約1/2。G. 覆土中。H. 梵字 (梵字自体は不明) が一箇所施されていたようで、朱による円形の区画内を墨で黒く塗り潰している。
SK76 6	砥石	A. 残存長29.7、最大幅10.0。C. 面は7面あり、いずれも良く磨かれている。D. 砂岩。F. 両端部欠損。G. 覆土中。H. 各面及び両端部の切断面には、鉄分の付着が顕著に見られる。
SK77 3	粉挽き白 (上 白)	A. 残存幅4.0、残存高3.6。C. 上面は比較的丁寧な研磨。側面はやや雑な研磨を施す。D. 多孔質安山岩。F. 小破片。G. 覆土中。

土壌出土古銭観察表

料	古銭名	初鑄年	字体	直径	重さ	残存度	出土土壌	備考
1	祥符元宝	北宋 1008年	楷書	2.4	2.45	完形	第13号土壌	
2	天聖通宝	北宋 1023年	篆書	2.4	2.55	完形	第43号土壌	
3	元(豊)通宝	宋 1078年	行書	2.45	2.1	完形	第43号土壌	
4	元(祐)通宝	宋 1078年	行書	2.4	1.8	完形	第43号土壌	
5	永楽通宝	明 1408年	楷書	2.5	2.5	完形	第43号土壌	
6	永楽通宝	明 1408年	楷書	2.4	3.05	完形	第65号土壌	
7	永楽通宝	明 1408年	楷書	2.5	2.55	完形	第65号土壌	
8	皇宋通宝	北宋 1039年	篆書	2.45	(2.0)	一部欠損	第69号土壌	
9	皇宋通宝	北宋 1039年	楷書	2.45	1.95	一部欠損	第69号土壌	
10	紹聖元宝	北宋 1094年	篆書	2.5	2.65	完形	第69号土壌	
11	洪武通宝	明 1367年	楷書	2.25	2.70	完形	第69号土壌	覆土第6層の上位から出土。
12	永楽通宝	16世紀末	楷書	2.2	1.0	一部欠損	第69号土壌	模銭銭。非常に薄い。
13	(永楽通宝)	明 1408年	楷書	—	(0.5)	1/4	第69号土壌	

3 溝 跡

第1号溝跡 (第20図)

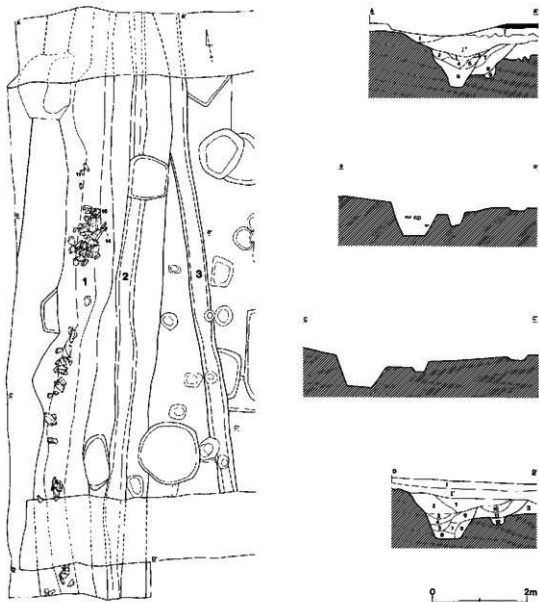
調査区内の西端部に位置し、重複する第2号溝跡・第9号土壌・第10号土壌を切っている。調査区内では、概ね南北方向に向いてほぼ直線的な流路をとっているが、東側の第2号溝跡と近接して併走していることから、本溝跡は第2号溝跡と同一目的の溝で、その掘り返しに伴って位置が若干西側にずれた溝と推測される。その流路の方向は、現地表面の等高線とほぼ平行し、恒常的に水が流れていたような形跡が覆土中に見られないことから、土地の区画と排水を目的に掘削された溝と考えられる。規模は、溝の上幅が確認面で100cm~120cmの比較的均一な幅で、底面の幅は30cm~50cmを測る。断面の形態は、いわゆる逆台形を呈し、壁は直線的に傾斜し、底面は平坦である。深さは、調査区北側断面で最高90cmある。

遺物は、口縁部の断面が三角形を呈する比較的古そうな片口鉢の小破片 (№13) が1片出土しているが、大半は16世紀~18世紀後半頃の土器や陶磁器の破片である。これらの遺物以外では、覆土の上半より長さ15cm~30cmの自然石が比較的多く出土している。

本溝跡の掘削時期については明確ではないが、A軽石降下後の近世後半~末頃には埋没したか、浅い窪み程度になっていたものと推測される。

第2号溝跡（第20図）

調査区内の西端部に位置し、重複する第10号土塙を切り、第1号溝跡・第11号土塙・第39号土塙に切られている。本溝跡は、前述のとおり第1号溝跡と同一目的の溝で、その掘り返し以前の溝と考えられる。規模は、溝の西側半分を第1号溝跡に切られているため不明であるが、残存する部分から推測すると、上幅が150cm以上はあったものと思われる。断面の形態は、逆台形か浅いUの字形で、底面は25cm～40cm幅で一段深くなっている。深さは、調査区北側の断面で最高70cmある。遺物は非常に少なく、覆土中から中世の鉢と土師器皿（第22図No.1）の破片が出土しただけである。



第20図 第1～3号溝跡

第3号溝跡（第20図）

調査区内の西端部に位置し、重複する第42号土壌・第43号土壌・第44号土壌を切っている。西側の第2号溝跡とも一部重複しているが、相互の新旧関係は不明である。調査区内で検出された部分では、ほぼ南北方向に向いて直線的な流路をとっているが、近接する第1号溝跡や第2号溝跡の流路方向とは若干異なっている。規模は、溝の上幅が40cm～45cmの比較的均一な幅で、底面は広く平坦である。確認面からの深さは10cm程度である。出土遺物は何もなく、時期は不明である。

第1～3号溝跡北側断面（A-A'）土層説明

第1層：現耕作土。

第1'層：旧耕作土（A軽石混入）。

<第1号溝跡>

第1層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを少量、炭化物ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第7層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第8層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロック・炭化物ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

<第2号溝跡>

第9層：暗茶褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第1～3号溝跡南側断面（D-D'）土層説明

第1層：現耕作土。

第1'層：旧耕作土（A軽石混入）。

第II層：旧耕作土。

<第1号溝跡>

第1層：暗灰褐色土層（A軽石・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第2層：暗灰褐色土層（A軽石を中量、ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗灰褐色土層（ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗灰褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：暗灰褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第6層：暗黄灰褐色土層（ローム粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第7層：暗灰褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第8層：暗黄灰褐色土層（ローム粒子を多量微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

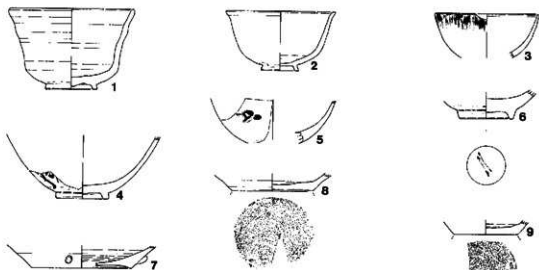
第9層：暗灰褐色土層（ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第10層：暗灰褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第11層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを中量、炭化物ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

<第2号溝跡>

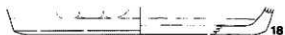
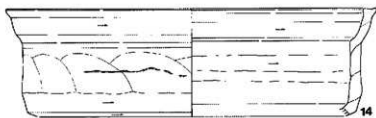
第12層：暗黄灰褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）



第1号溝跡



第21图 溝跡出土遺物 (1)



第1号溝跡



第2号溝跡



第22図 溝跡出土遺物 (2)

第1号溝跡出土遺物観察表

1	碗	A. 口縁部径10.0、器高6.4、高台部径4.1。B. ロク口成形。高台部削り出し。C. 体部内外面回転ナデ。高台部内面回転笠ケズリ。D. 白色粒。E. 内外一淡黄白色。F. 1/4。G. 覆土中。H. 高台部以外は内外面とも施釉。全面に細かな貫入が見られる。京焼（信楽）系。
2	灰釉碗	A. 口縁部径（8.7）、器高4.8、高台部径3.0。B. ロク口成形。高台部削り出し。C. 体部内外面回転ナデ。高台部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡緑灰色、肉一淡灰色。F. 1/2弱。G. 覆土中。H. 高台部以外は内外面とも淡緑色の釉を施す。全面に細かな貫入が見られる。肥前系。
3	磁器染付碗	A. 口縁部径（8.2）。B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一白色。F. 口縁部1/4破片。G. 覆土中。H. 内外面とも無色の釉を施す。口唇部外面には斑点状に黒褐色の釉が見られる。染付けは青色。肥前系。
4	柳茶碗	A. 高台部径（4.2）。B. ロク口成形。高台部削り出し。C. 体部内外面回転ナデ。高台部内外面回転笠ケズリ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一淡緑灰色、肉一淡灰白色。F. 1/3。G. 覆土中。H. 体部に鉄軸により文様を施す。高台部以外は内外面とも淡緑色の釉がかかる。全面に細かな貫入が見られる。H. 瀬戸美濃系。
5	磁器染付碗	B. ロク口成形。C. 体部内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一淡灰白色。F. 体部破片。G. 覆土中。H. 内外面とも無色の釉を施す。染付けは青色。肥前系。
6	磁器染付碗	A. 高台部径（4.2）。B. ロク口成形。C. 体部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡灰白色。F. 高台部のみ。G. 覆土中。H. 高台部置付以外は全面に乳白色の釉を施す。染付けはコバルトの発色が薄くやや灰色かがる。置付に砂付着。肥前系。
7	土瓶	A. 底部径8.0。B. ロク口成形。足貼り付け。C. 体部内外面及び底部外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 外一淡褐色、内一淡黄灰色。F. 底部1/3破片。G. 覆土中。H. 3足は豆状のもので、地面に接していない。外面に煤付着。
8	土師器皿	A. 底部径6.4。B. ロク口成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 底部のみ。G. 覆土中。H. 内外面に煤付着。
9	土師器皿	A. 底部径（5.0）。B. ロク口成形。C. 底部内面回転ナデ、外面回転糸切り。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 底部1/4破片。G. 覆土中。
10	播鉢	A. 口縁部径（30.0）。B. 粘土組織み上げ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 褐色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。肉一淡茶褐色。F. 口縁部小破片。G. 覆土中。H. 内面に掻目あり。丹波系。
11	播鉢	A. 口縁部径（26.0）。B. 粘土組織み上げ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一暗褐色。肉一明褐色。F. 口縁部1/12破片。G. 覆土中。H. 内面に7本歯以上の櫛歯状工具による掻目あり。№12と同一個体。瀬戸美濃系。
12	播鉢	B. 粘土組織み上げ成形。C. 胴部内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一暗褐色。肉一明褐色。F. 胴部破片。G. 覆土中。H. 内面に櫛歯状工具による放射状の細かい掻目あり。№11と同一個体。瀬戸美濃系。
13	片口鉢	A. 口縁部径（28.8）。B. 粘土組織み上げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡灰色。F. 口縁部小破片。G. 覆土中。H. 瓦質。
14	内耳鍋	A. 口縁部径（29.4）、推定高（8.0）、底部径（26.0）。B. 粘土組織み上げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの接下端ケズリ、内面ナデ。底部外縁ケズリ。D. 白色粒。E. 内外一暗灰褐色。肉一淡茶褐色。F. 1/8。G. 覆土中。H. 口縁部外面に煤付着。
15	内耳鍋	A. 口縁部径（29.0）。B. 粘土組織み上げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外一暗灰色。F. 1/6。G. 覆土中。H. 口縁部外面に煤付着。
16	内耳鍋	A. 口縁部径（30.0）。B. 粘土組織み上げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗灰褐色。F. 1/6。G. 覆土中。H. 口縁部外面に煤付着。
17	内耳鍋	A. 底部径（24.0）。B. 粘土組織み上げ成形。C. 胴部外面下端ケズリ、内面指ナデ。底部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗褐色。F. 底部1/6破片。G. 覆土中。H. 胴部外面に煤付着。
18	内耳鍋	A. 底部径（20.0）。B. 粘土組織み上げ成形。C. 胴部内外面ナデ。底部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一暗褐色。内一暗茶褐色。F. 底部1/4破片。G. 覆土中。H. 胴部外面に煤付着。

第2号溝跡出土遺物観察表

1	土師器皿	A. 口縁部径（11.0）。B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一橙褐色。F. 口縁部1/8破片。G. 覆土中。
---	------	---

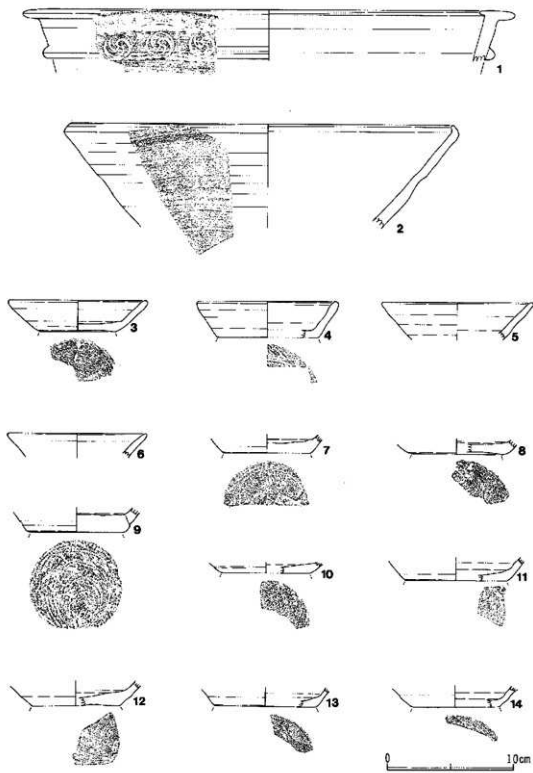
4 調査区内出土の遺物

A地点調査区内出土遺物観察表

1	火鉢	A. 口縁部径 (39.0)。B. 粘土紐積み上げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外-暗茶褐色、内-淡茶褐色。F. 口縁部1/12破片。G. 覆土中。H. 外面に三巴の押印文を等間隔に施す。
2	鉢	A. 口縁部径 (31.2)。B. 粘土紐積み上げ成形。C. 外面ヨコナデ、内面ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外-淡茶灰褐色、内-暗茶褐色。F. 1/10。G. 覆土中。H. 内面は斑点状剥落顯著。
3	土師器 皿	A. 口縁部径 (11.0)。器高2.5。底部径 (6.0)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 1/6。G. 覆土中。H. 内面にタール状の黒色付着物。
4	土師器 皿	A. 口縁部径 (11.2)。器高2.9。底部径 (8.0)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 1/5。G. 覆土中。H. 内外面とも煤付着。
5	土師器 皿	A. 口縁部径 (12.0)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 口縁部1/10破片。G. 覆土中。
6	土師器 皿	A. 口縁部径 (11.0)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 口縁部1/12破片。G. 覆土中。
7	土師器 皿	A. 底部径6.8。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 底部1/2破片。G. 覆土中。H. 内面に煤付着。
8	土師器 皿	A. 底部径7.0。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 底部1/3破片。G. 覆土中。
9	土師器 皿	A. 底部径7.2。B. ロクロ成形。C. 体部内面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-暗橙褐色、内-淡褐色。F. 底部のみ。G. 覆土中。
10	土師器 皿	A. 底部径 (7.0)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 底部1/4破片。G. 覆土中。
11	土師器 皿	A. 底部径 (8.0)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 底部1/7破片。G. 覆土中。
12	土師器 皿	A. 底部径 (7.0)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 底部1/4破片。G. 覆土中。
13	土師器 皿	A. 底部径 (8.0)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 底部1/4破片。G. 覆土中。
14	土師器 皿	A. 底部径 (7.0)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 底部1/4破片。G. 覆土中。H. 外面に黒斑あり。



金屋高城寺墓地内五輪塔跡



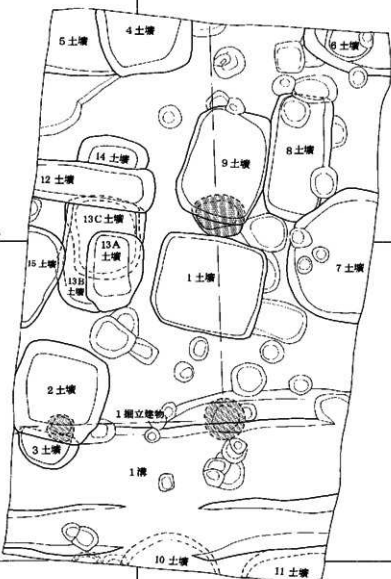
第23圖 A地点調査区内出土遺物

Y=-63742.20
(Y=-63450.00)



Y=-63738.20
(Y=-63446.00)

Y=-63734.20
(Y=-63442.00)



X=21084.60
(X=20730.00)

0 2m

X=21086.60
(X=20734.00)

第24图 金屋西遺跡B地点全体图

V B地点の発掘調査

1 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡（第25図）

調査区中央に位置し、第2号土壇・第3号土壇・第9号土壇・第1号溝跡に切られている。調査区内で検出されたのは建物跡の一部であるため、建物の全容は不明であるが、桁行・梁行とも2間以上の側柱式建物の可能性が考えられる。

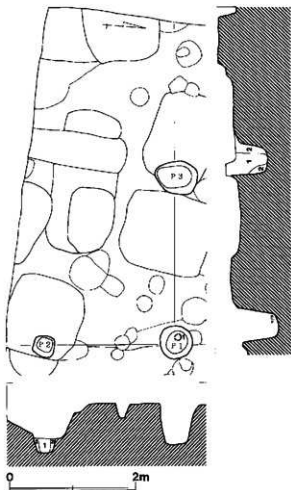
規模は、東西方向の柱心間は2.54m、南北方向の柱心間は2.08mである。柱穴は、長さ50cm～70cm程度の円形か楕円形ぎみの形態で、確認面からの深さはいずれも70cm～80cmある。柱穴掘り方の埋土は、いずれも柱を埋めた後ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土（第2層）によって、強く突き固められていた。

遺物は、柱穴P1の底面から8世紀末～9世紀前半頃の完形の土師器杯（第28図1）が1点出土しただけである。

第1号掘立柱建物跡土層説明

第1層：黒褐色土層（ローム粒子を多量に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）



第25図 第1号掘立柱建物跡

2 土壇

第1号土壇（第26図）

調査区のほぼ中央に位置する。平面形は、比較的整った方形を呈し、規模は南北方向138cm、東西方向125cmを測る。壁は、わずかに外傾して立ち上がり、確認面からの深さは20cmである。底面は、広く平坦である。覆土は、ロームブロック・ローム粒子・A軽石を均一に含む。遺物は、覆土中より染付

碗の破片（第28図2）と古墳時代の土師器壺の小破片が1片ずつ出土しただけである。時期は、覆土の状態や出土遺物から18世紀後半以降の所産と考えられる。

第2号土壇（第26図）

調査区南東側の南壁際に位置している。第1号掘立柱建物跡・第1号溝跡・第3号土壇を切っている。平面形は、やや隅丸の不整形を呈し、規模は南北方向127cm、東西方向117cmを測る。壁は、わずかに内湾ぎみに開いて立ち上がり、確認面からの深さは66.5cmである。底面は、広く平坦である。覆土は、方形の掘り方に対し、直径80cm前後の円筒形の埋納状況が確認され、円筒部はA軽石・ローム粒子を均一に含み、周囲はロームブロックを多量に含む暗黄褐色土層である。座棺（桶形）を埋めた墓壇の可能性が考えられる。遺物は、肥前系の染付碗と蓋3個体の破片（第28図3・5・6）と、瀬戸美濃系の仏飯具（第28図4）や土師器皿の破片（第28図7）及び、鉄釘の破片などが覆土中から出土している。時期は、覆土の状態や出土遺物から、18世紀後半以降の所産と考える。

第3号土壇（第26図）

調査区南東側の南壁際に位置し、第1号溝跡と第2号土壇に切られている。平面形は、不整形を呈するものと思われる。規模は、南北方向78cm、東西方向は45cmまで測れる。壁は、わずかに外傾して直線的に立ち上がり、確認面からの深さは42cmである。底面は、平坦で広い。覆土は、ローム粒子を多量に、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土で、遺物は、覆土中より中世の内耳鍋と思われる小破片が1片出土しただけである。時期は、覆土の状態や遺構の重複関係から、A軽石降下以前と推測される。

第4号土壇（第26図）

調査区西南隅に位置し、第5号土壇を切っている。土壇の西側半分は調査区外にあるため、全容は不明であるが、平面形は確認された部分から推測して隅丸方形か長方形と思われる。規模は、南北方向が120cm、東西方向は82cmまで測れる。壁は、大きく外傾して直線的に立ち上がり、確認面からの深さは37cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、A軽石・ロームブロック・ローム粒子を含む。遺物は、覆土中から土師器の小破片が2片出土しただけである。時期は、覆土の状態からA軽石降下以降の所産と考えられる。

第5号土壇（第26図）

調査区の西南隅に位置し、北側を第4号土壇に切られている。調査区内で検出されたのは、遺構の東壁の一部だけであるため、遺構の全容は不明である。壁は、大きく外傾して立ち上がるものと思われ、確認面からの深さは21cmである。底面は、広く平坦である。覆土は、A軽石・ロームブロック・白色粘土ブロックを含む。遺物は、覆土中から近世の土師器皿の破片（第28図8）が出土しただけである。時期は、覆土の状態や出土遺物からA軽石降下以降の近世後半頃と考えられる。

第6号土塙（第26図）

調査区北西隅に位置する。遺構の西側と北側は調査区外のため、全容は不明である。平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、胴膨らみの長方形を呈していたものと思われる。規模は、南北方向が108cmまで、東西方向が57cmまで測れる。壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、確認面からの深さは30cmある。底面は、広く平坦であるが、直径59cm、深さ7cm前後の円形に近い掘り込みがあり、さらにその北縁に径15cm、深さ20cmほどのピットがある。覆土は、ローム粒子・ロームブロック・炭化粒子・白色粘土ブロックなどを含む。遺物は、覆土中から土師器皿の小破片と鉄滓が少量出土しただけである。時期は、覆土の状態からA軽石降下以前の可能性が高いと思われる。

第7号土塙（第26図）

調査区北壁中央に位置し、第8号土塙を切っている。土塙の北側半分は調査区外であり、遺構の全容は不明である。平面形は、確認された部分から推測すると、円形と思われる。規模は、東西方向が171cm、南北方向は103cmまで測れる。壁は、大きく外傾して立ち上がり、確認面からの深さは31.5cmある。底面は、広く平坦である。遺物は、覆土中から土師器皿の小破片と鉄滓が少量出土しただけである。時期は、覆土の状態や出土遺物から、中世後半以降の所産と考えられる。

第8号土塙（第26図）

調査区北西部に位置し、第7号土塙に切られ、第9号土塙を切っている。平面形は長方形を呈し、規模は東西方向161cm、南北方向75cmを測る。壁は、ほぼ直線的に立ち上がり、確認面からの深さは28cmある。底面は、広く平坦である。遺物は、覆土中から土師器皿の破片と砥石の破片（第28図11・12・13）が出土している。時期は、覆土の状態や出土遺物から中世後半以降と推測される。

第9号土塙（第26図）

調査区中央よりやや西方向に位置し、第8号土塙に切られ、第1号掘立柱建物跡を切っている。平面形は、隅丸の長方形を呈し、規模は東西方向148cm、南北方向106cmを測る。壁は、直線的に立ち上がり、確認面からの深さは25.5cmある。底面は、広く平坦である。遺物は、覆土中から土師器の小破片と鉄滓が少量出土しただけである。時期は、覆土の状態や遺構の重複関係から、中世以降の所産と推測される。

第10号土塙（第26図）

調査区東端の東壁中央に位置し、上面を第1号溝跡に切られている。遺構の東側半分は、調査区外のため全容は不明であるが、平面形は調査区内で確認した部分から推測すると、円形を呈するものと推測される。規模は、南北方向が130cmであり、東西方向は47cmまで測れる。壁は、外傾して立ち上がり、確認面からの深さは22cmある。底面は、広く平坦である。底面の中央部には白色粘土が厚さ5cm程度の円盤状に貼ってあった。遺物は、覆土中から中世の内耳鍋の破片が2片（第28図14・15）出土しただけである。時期は、覆土の状態や出土遺物から中世後半以降と考えられる。

第11号土壌（第26図）

調査区の北東隅に位置し、第1号溝跡によって切られている。遺構の東側と北側が調査区外のため全容は不明であるが、調査区内に検出された遺構から楕円もしくは隅丸長方形を呈するものと思われる。規模は、南北方向が105cmまで、東西方向が42cmまで測れる。壁は、わずかに外傾して立ち上がり、確認面からの深さは8cmある。底面は、全体に平坦で広いが、調査区北東隅に向かって少し低くなる。遺物は、何も出土していない。時期は、覆土の状態から、A軽石降下以前の中世から近世前半頃の所産と推測される。

第12号土壌（第26図）

調査区中央の南側に位置し、第13B・13C・14号土壌を切っている。遺構の南側は調査区外に延びている。平面形は、確認された部分から推測すると、隅がやや丸くなる長方形と思われる。規模は、東西方向54cm、南北方向は150cmまで測れる。壁は、若干外傾して直線的に立ち上がり、確認面からの深さは25.5cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、A軽石を含む単一層である。遺物は、覆土中から土師器皿の小破片が少量出土しただけである。時期は、覆土の状態から、A軽石降下以降の所産と考えられる。

第13A号土壌（第26図）

調査区南側の中央に位置し、第13B号土壌と第13C号土壌を切っている。平面形は、隅丸の不整長方形を呈し、規模は東西方向104cm、南北方向70cmを測る。壁は、西壁が内湾気味に立ち上がり、東壁は大きく外傾して直線的に立ち上がる。確認面から深さは、23.5cmである。底面は、広く平坦である。遺物は、覆土中から土師器の小破片が少量出土しただけである。時期は、覆土の状態から、A軽石降下以前の中世から近世前半頃の所産と推測される。

第13B号土壌（第26図）

調査区南側の中央に位置している。第12・13A・15号土壌に切られ、第13C号土壌を切っている。平面形は、隅丸長方形を呈し、規模は南北方向98cm、東西方向133cmを測る。壁は、やや内湾気味に立ち上がり、確認面からの深さは20cmある。底面は、広く平坦であるが、壁に向かって緩やかに高くなっている。遺物は、覆土中から土師器皿の小破片が少量出土しただけである。時期は、覆土の状態から、A軽石降下以前の中世から近世前半頃の所産と推測される。

第13C号土壌（第26図）

調査区南側の中央に位置し、第12・13A・13B号土壌に切られている。平面形は、隅丸の長方形を呈し、規模は南北方向92cm、東西方向108cmを測る。壁は、大きく外傾して立ち上がり、確認面からの深さは29cmある。底面は、広く平坦であるが、壁に向かって緩やかに高くなっている。遺物は、覆土中から土師器の小破片が出土しただけである。時期は、覆土の状態から、A軽石降下以前の中世から近世前半頃の所産と推測される。

第14号土壌（第26図）

調査区西南部に位置し、第12号土壌に切られている。平面形は、遺構東側半分が第12号土壌に切られているため、全容は不明であるが、確認残存する部分より推測すると、隅丸方形か隅丸長方形を呈するものと思われる。規模は、南北方向88cm、東西方向は39cmまで測れる。壁は、大きく外傾して直線的に立ち上がり、確認面からの深さは22cmある。底面は広く平坦である。時期は、覆土の状態から、A軽石降下以前の中世から近世前半頃の所産と推測される。

第15号土壌（第26図）

調査区南側の壁際に位置し、第13B号土壌を切っている。土壌の南側半分は、調査区外にあるため、全容は不明であるが、調査区内で検出された部分から推測すると、平面形は隅丸方形もしくは隅丸長方形を呈するものと思われる。規模は、東西方向131cm、南北方向は51cmまで測れる。壁は、大きく外傾して内湾気味に立ち上がり、確認面からの深さは13.5cmある。底面は、広く平坦である。遺物は、覆土中から土師器皿の破片（第28図16）が少量出土しただけである。時期は、覆土の状態から、A軽石降下以降の所産と考えられる。

第1号土壌土層説明

- 第1層：暗黄褐色土層（A軽石・ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗褐色土層（A軽石を均一に、ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性・しまりともない。）

第2・3号土壌土層説明

<第2号土壌>

- 第1層：暗褐色土層（A軽石・ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗褐色土層（細砂粒・ロームブロックを均一に、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：黒褐色土層（A軽石を均一に、ローム粒子・細砂を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：暗茶褐色土層（細砂粒・ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第5層：暗褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性・しまりともない。）

<第3号土壌>

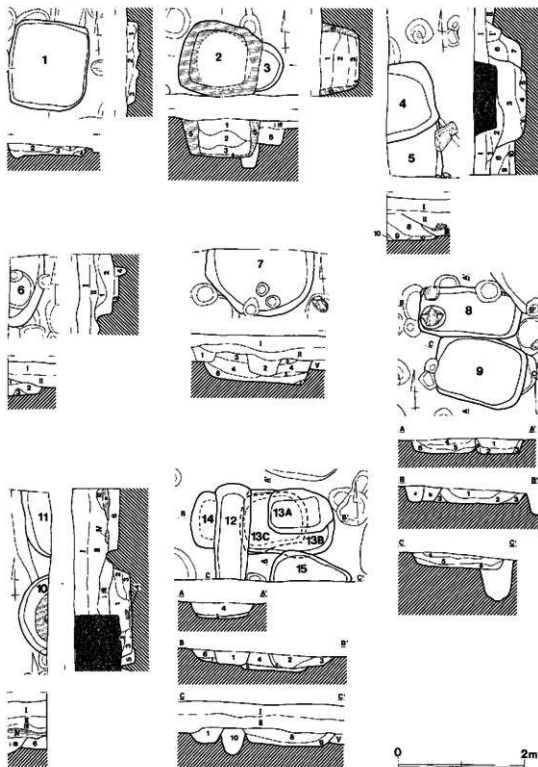
- 第6層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量に、ロームブロックを均一に含む。粘性・しまりともない。）

第4・5号土壌土層説明

- 第I層：現耕作土。
- 第II層：旧耕作土。
- 第III層：旧耕作土。

<視 乱>

- 第1層：暗褐色土層（A軽石・ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 - 第2層：黒褐色土層（炭化粒子を多量に、A軽石・ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
- ##### <第4号土壌>
- 第3層：暗褐色土層（A軽石・ロームブロックを均一に含む。ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 - 第4層：暗茶褐色土層（A軽石・ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）
 - 第5層：暗茶褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性・しまりともない。）



第26図 土 壺

<ビット>

第6層：暗褐色土層（A軽石を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

第7層：暗褐色土層（A軽石・ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）

<第5号土壌>

第8層：黒褐色土層（A軽石・ロームブロックを均一に、白色粘土ブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

第9層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロック・白色粘土ブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

第10層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）

第6号土壌土層説明

第1層：現耕作土。

第Ⅱ層：旧耕作土（A軽石混入）。

第1層：黒褐色土層（A軽石・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロック・炭化粒子・白色粘土ブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

第3層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性・しまりともない。）

第4層：暗茶褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）

第7号土壌土層説明

第1層：現耕作土。

第Ⅱ層：旧耕作土（A軽石混入）。

第Ⅴ層：暗褐色土層（A軽石を含まない）。

<ビット>

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

第2層：黒褐色土層（A軽石・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

<第7号土壌>

第3層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロック・白色粘土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第5層：暗茶褐色土層（ローム粒子を多量に、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

第6層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第7層：暗茶褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）

第8・9号土壌土層説明

<ビット>

第a層：黒褐色土層（A軽石・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第b層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

<第8号土壌>

第1層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、白色粘土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を均一に、換土粒子・ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

第3層：暗茶褐色土層（ロームブロックを均一に、ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

<第9号土壌>

第4層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第5層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に、炭化粒子・白色粘土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第6層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第10・11号土壌土層説明

第1層：現耕作土。

第Ⅱ層：旧耕作土（A軽石混入）。

第Ⅲ層：旧赤褐色土層（A軽石・焼土ブロックを含む）。

第Ⅳ層：暗灰褐色土層（A軽石多量）。

<第10号土塊>

第1層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性・しまりともない。）

第2層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：白色粘土層（白色粘土塊）

<ピット>

第5層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

<第11号土塊>

第6層：暗褐色土層（ロームブロックを均一に、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第12・13A・13B・13C・14・15号土塊土層説明

<第12号土塊>

第1層：暗褐色土層（A軽石・ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

<第13A号土塊>

第2層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

<第13B号土塊>

第4層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

<第13C号土塊>

第5層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）

<第14号土塊>

第6層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性・しまりともない。）

第7層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性・しまりともない。）

<第15号土塊>

第8層：暗褐色土層（A軽石を均一に、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第9層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

<ピット>

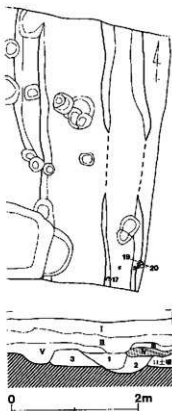
第10層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）



3 溝 跡

第1号溝跡 (第27図)

調査区の東端に位置し、重複する第1号掘立柱建物跡・第3・10・11号土壇を切り、第2号土壇に切られている。調査区内では、ほぼ南北方向に向いて直線的な流路をとっているが、南北両端における溝底面の比高差はあまり見られない。溝の規模は、上幅が170cm以上を測るが、溝の東側は掘り返しによるものである。当初の溝は、底面が広く平坦な形態であったが、並行して掘り返された溝は、上幅が120cmで底面が比較的狭く丸みをもつ形態になっている。確認面からの深さは、当初の溝が25cmで、掘り返された溝は32cmである。覆土の状態からは、恒常的に水が流れていたような痕跡はみられない。遺物は、覆土中から内耳鍋の破片(第28図№17~20)と土師器皿の破片が出土している。時期は、覆土の状態や出土遺物から、中世後期の16世紀初頭頃と考えられる。



第27図 第1号溝跡

第1号溝跡土層説明

第1層：現耕作土。

第II層：旧耕作土。

第III層：暗赤褐色土層 (A軽石・焼土ブロックを含む。)

第IV層：暗灰褐色土層 (A軽石多量。)

第V層：暗褐色土層 (A軽石を含まない。)

第1層：暗褐色土層 (ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。)

第2層：暗褐色土層 (ローム粒子を均一に、ロームブロック・白色粘土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

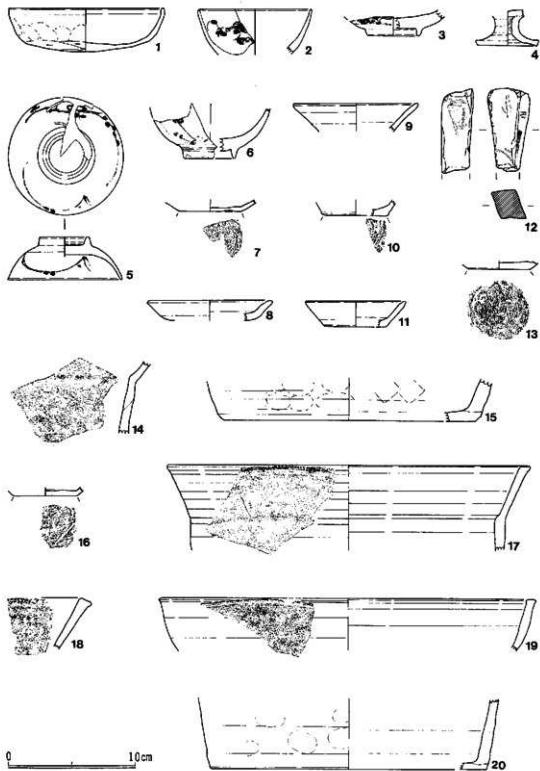
第3層：暗褐色土層 (ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。)



4 B地点出土の遺物

B地点遺構出土遺物観察表

1	土師器 坏	A. 口縁部径12.2、器高3.4。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面雑なナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一茶褐色。F. 完形。G. 第1号掘立柱建物跡柱穴P1内。H. 体部外面に小さな縦亀裂と指頭圧痕を残す。
2	磁器 染付碗	A. 口縁部径(9.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面とも回転ナデの後、釉を施す。D. 白色粒。E. 内外一白色。F. 口縁部1/5破片。G. 第1号土壌覆土。H. 肥前系。
3	磁器 染付碗	A. 高台部径(4.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面とも回転ナデの後、釉を施す。D. 白色粒・黒色粒。E. 内外一淡灰色。F. 高台部1/3破片。G. 第2号土壌覆土。H. 肥前系。畳付砂付着。
4	陶器 付	A. 高台部径5.0。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 高台部内外面回転ナデ。碗部内外面に淡緑色釉を施す。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外一淡灰色。F. 外一1/2。G. 第2号土壌覆土。H. 瀬戸美濃系。仏飯具。
5	磁器 染付碗蓋	A. 口縁部径9.0、器高3.4、高台部径3.9。B. ロクロ成形。C. 内外面とも回転ナデの後、釉を施す。D. 白色粒・黒色粒。E. 内外一淡灰色。F. ほぼ完形。G. 第2号土壌覆土。H. 肥前系。畳付砂付着。
6	磁器 染付碗	A. 高台部径(4.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面とも回転ナデの後、釉を施す。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外一淡灰色。F. 体部1/3破片。G. 第2号土壌覆土。H. 肥前系。
7	土師器 皿	A. 底部径(5.0)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 黒色粒・白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 底部1/4破片。G. 第2号土壌覆土。
8	土師器 皿	A. 口縁部径(10.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒・赤色粒。E. 内外一淡橙褐色。F. 口縁部1/4弱破片。G. 第5号土壌覆土。
9	土師器 皿	A. 口縁部径(10.0)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 外一淡茶褐色、内一暗褐色。F. 口縁部1/6破片。G. 第7号土壌覆土。
10	土師器 皿	A. 底部径(5.2)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 赤色粒・白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 底部1/6破片。G. 第7号土壌覆土。
11	土師器 皿	A. 口縁部径(8.0)、器高2.0、底部径(4.9)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 黒色粒・白色粒。E. 内外一茶褐色。F. 口縁部1/4弱破片。G. 第8号土壌覆土。H. 口唇部内外面に油煙付着。
12	紙 石	A. 残存長6.6、最大幅3.4、重さ65g。B. 断面四角形の形態に整形。C. 残存する各面とも良く磨られている。D. 凝灰岩。F. 下半欠損。G. 第8号土壌覆土。
13	土師器 皿	A. 底部径(4.8)。B. ロクロ成形。C. 底部外面回転系切り、内面回転ナデ。D. 赤色粒・白色粒。E. 内外一淡橙褐色。F. 底部のみ。G. 第8号土壌覆土。
14	内耳鍋	B. 粘土粗積み上げ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。胴部外面雑なナデの後部分的に篋ナデ、内面ヨコナデ。D. 赤色粒、黒色粒。E. 内外一淡灰褐色。F. 破片。G. 第10号土壌覆土。H. 胴部外面に指頭圧痕を残す。
15	内耳鍋	A. 底部径(20.0)。B. 粘土粗積み上げ成形。C. 胴部外面部分的なナデ、内面篋ナデ。底部内外面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一黒褐色。F. 底部破片。G. 第10号土壌覆土。H. 胴部外面に煤付着。
16	土師器 皿	A. 底部径(5.0)。B. ロクロ成形。C. 底部外面回転系切り、内面回転ナデ。D. 赤色粒・白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 底部1/4破片。G. 第15号土壌覆土。
17	内耳鍋	A. 口縁部径(29.0)。B. 粘土粗積み上げ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。胴部外面ナデ、内面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一暗灰色。F. 口縁部1/12破片。G. 第1号溝跡覆土。H. 外面煤付着。
18	内耳鍋	B. 粘土粗積み上げ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗褐色。F. 口縁部破片。G. 第1号溝跡覆土。H. 外面に煤付着。
19	内耳鍋	A. 口縁部径(30.0)。B. 粘土粗積み上げ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 内外一暗灰色。F. 口縁部1/12破片。G. 第1号溝跡覆土。
20	内耳鍋	A. 底部径(22.0)。B. 粘土粗積み上げ成形。C. 胴部外面ナデ、内面回転ナデ。底部内外面ナデ。D. 赤色粒・白色粒。E. 外一黒褐色、内一暗褐色。F. 底部1/7破片。G. 第1号溝跡覆土。H. 胴部外面煤付着、指頭圧痕顕著。



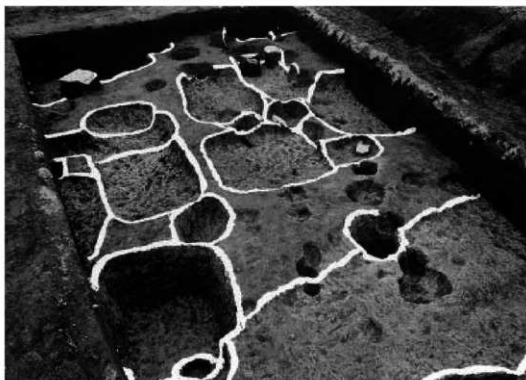
第28圖 B地点遺構出土遺物



第29図 B地点調査区内出土遺物

B地点調査区内出土遺物観察表

21	丸 皿	A. 口縁部径(12.4)、器高2.4、高台部径7.5。B. ロクロ成形。高台部削り出し。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転笠ケズリ。内外面とも施釉。D. 赤色粒・白色粒。E. 内外一乳白色。F. 約1/3破片。G. 東側調査区内。H. 文様は鉄釉により施文。底部外面に五徳痕あり。H. 瀬戸美濃系。
22	陶 器 灯明受皿	A. 口縁部径(10.0)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデの後、内面及び外面上半施釉。D. 白色粒。E. 内外一茶褐色。F. 口縁部1/6破片。G. 東側調査区内。H. 瀬戸美濃系。
23	焙 烙	B. 粘土細積み上げ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面ナデ。D. 赤色粒・白色粒。E. 内外一暗灰褐色。F. 破片。G. 西側調査区内表土。
24	丸 皿	A. 高台部径(7.0)。B. ロクロ成形。高台部削り出し。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転笠ケズリ。内外面とも施釉。D. 黒色粒・白色粒。E. 内外一乳白色。F. 底部1/4破片。G. 東側調査区内表土。H. 瀬戸美濃系。



VI ま と め

今回報告した金屋西遺跡のA・B地点では、いずれの調査区ともその全域から中世～近世の土壌が多数重複して検出されている。これらの土壌は、その性格を出土物などから直接的に明らかにできるものはほとんどないが、A地点の第69号土壌では骨片が、第13号土壌・第43号土壌・第65号土壌・第69号土壌では古銭が、第75号土壌では五輪塔の火輪の破片などが出土し、またB地点の第2号土壌では覆土の堆積状態から桶形の座棺の埋納が考えられることなどから、おそらくその大半は墓塚の可能性が高いと考えられ、隣接する長谷観音寺（宝蔵寺）や真福寺と関係して、長期間にわたって墓地を形成していたものと推測される。

土壌の形態は、円形・楕円形・長方形・隅丸長方形・方形・不整形など様々であり、中にはA地点第41号土壌のように、その規模や形態がいわゆる「方形竪穴状遺構」に類似するものもある。A地点の土壌群では、形態の差異によってその配列や分布に規則性や傾向がある程度認められ、それは円形を呈するものと長方形及び隅丸長方形を呈するものに顕著なようである。すなわち、円形を呈するものは、円形同士の土壌ではあまり重複せずに、調査区の中央部に密集して分布するものと、その周辺にやや離れて散在的に配置されているものが見られる。長方形及び隅丸長方形のものは、重複頻度が高いものの、その長軸方向を東西方向か南北方向に向けているものがほとんどであるが、その方向が東西・南北のいずれかに一致するものと、南西から北東方向に若干傾く調査区西端の第1・2号溝跡と平行もしくは直交するものの二者があり、全体的には後者の方が多い。これらの傾向は、調査範囲が狭くその様相がA地点ほど明確ではないが、B地点の土壌群でも同様の傾向が認められると思われる。このような形態の類似性とその配列の規則性や傾向は、本遺跡の場合おそらく相互の同時性と継続性を推測させるもので、その形態差や配列差は時期差を表しているのではないと思われる。しかしながら、今回のA・B両地点の調査では、出土遺物が全体的に貧弱でありながら混入も多く、時期や性格が特定できる土壌が極めて少なく、また重複関係も明確に把握されたものが少ないことから、現状では形態差を一律に扱うこと自体も危険であり、残念ながらこれらの重複関係を一つ一つ紐解いて、土壌墓群の時期的変遷の様相を明らかにすることは困難な状況である。今後の発掘調査の課題である。

A・B両地点から出土した遺物は、前述のとおり全体的に少量である。この中で、古代以前に遡る可能性のある遺物は、A地点から出土した時期不明の石器2点（図版22上段）と、B地点の第1号掘立柱建物跡の柱穴P1内から出土した完形の土師器杯（第28図No.1）だけで、他はすべて中世～近世のものである。中世～近世の遺物は、土器や陶磁器の他、石臼・五輪塔（火輪）・砥石の破片（第18図、第28図No.12）と古銭（第19図）などが少量出土している。土器や陶磁器は、良好な一括資料や完形品はほとんどなく、大半が小破片になって土壌や溝の覆土中から混在して出土したものがかりであるが、時期は概ね13世紀頃～18世紀頃の比較的長期間にわたるものが見られる。

13世紀代と考えられるものは、A地点の第1号溝跡から出土した瓦質の在地产片口鉢の破片（第21図No.13）だけである。この片口鉢は、口縁部外面に広い平坦面をもち、その断面形態が明確な三角形を呈するもので、荒川氏がいわゆる半月状口縁の片口鉢よりも古い一群として13世紀前半頃に

位置付けられたものに類似している（荒川1998）。

14世紀は、古瀬戸中期様式の製品がごく少量見られるだけである。それらは、A地点の第41号土壙から出土した小皿と鉢の破片（第14図）や、第77・80号土壙と第1号溝跡から出土した鉄軸垂類の破片（第17図・図版15下段）で、この中の鉢は中四期（14世紀中頃）の製品と考えられる。

15世紀は、在地産土器の内耳鍋と土師器皿が少量出土しているだけで、陶磁器類はほとんど見られない。内耳鍋は、A地点第66号土壙No.1（第15図）がある。胴部は丸みを持って傾斜し、内耳は紐状ではあるが孔は扁平化せずに丸い形態のもので、A・B両地点から出土した内耳鍋の中でもっとも古く、15世紀の中葉頃に位置付けられるものと思われる。この内耳鍋は、土壙の南東側コーナ一部付近の覆土上面から出土しているが、口縁部を上に向けて底部が丸く抜けた状態で出土しており（図版10上）、鍋や鉢を頭部に被せる葬送儀礼の状況とは多少異なるようである。土師器皿は、破片のため明確ではないが、A地点第67号土壙No.1（第15図）・第72号土壙No.1（第16図）・第75号土壙No.2（第16図）などが、中葉から終末にかけて位置するものと思われる。

16世紀は、15世紀と同様に陶磁器類はほとんど見られず在地産土器が主体であるが、量的には比較的多い方である。在地産土器は、内耳鍋・播鉢・土師器皿などがある。内耳鍋は、北武蔵地方ではこの時期になると直線的な胴部が徐々に浅くなって、中頃から後半には胴部の深さがこれまでの半分以下のものが現れ、終末段階には器高のほとんどを口縁部が占めるような焙烙的な形態のものが出現するとされている（両角1996、服部1997）。本遺跡出土の内耳鍋をこのような変化の段階に対比して考えると、A地点第73号土壙No.2（第16図）やB地点第1号溝跡出土のNo.17（第28図）などの、口縁部が長く直線的に外傾して口唇部が外側に肥厚し、胴部が直線的で立ちぎみの形態のものが15世紀末～16世紀前葉に、A地点第1号溝跡No.14やB地点第10号土壙No.14（第28図）などの、口縁部が短くなって胴部も半分以下に浅くなった形態のものが16世紀後半に、B地点西側調査区内出土のNo.23（第29図）のような、両角氏のC群I類（両角1996）に類似したほとんど胴部のない焙烙的な形態のものが16世紀終末～17世紀前葉頃に概ね位置付けられると思われる。播鉢は、A地点第73号土壙No.1（第16図）と第75号土壙No.1（第16図）があるが、いずれも短く放射状に間隔をあけて播目が施されているもので、前者は瓦質で口唇部の形態も古い様相が見られ、あるいは15世紀後葉～終末の段階まで遡るかもしれない。

17世紀は、量的には比較的少なく、A地点第1号溝跡No.2の肥前系灰軸碗（第21図）・No.10の丹波系播鉢（第21図）・No.11・12（第21図）や第23号土壙No.1（第14図）の瀬戸美濃系の播鉢など、後半期のものが判る程度である。

18世紀は、量的には16世紀に次いで多い方ではあるが、主に後半段階の肥前系染付碗（第21図No.3・5・6、第28図No.2・3・5・6）や瀬戸美濃系製品（第21図No.4、第28図No.4、第29図No.21・22・24）が大半を占めている。これらはA地点では第1号溝跡から、B地点では第2号土壙や調査区内から多く出土している。この他では、明確な時期が不明ではあるが、A地点第1号溝跡No.1（第21図）や第41号土壙No.1（第14図）の京焼系の製品も少量ながら出土している。

以上のように、A・B両地点から出土した中世～近世の遺物は、日常生活において一般的に使用されていたような器物がほとんどで、量的にも少なく、その内容は全体的に貧弱である。また、検

出された土壌墓群自体も火葬の痕跡や何だかの特別な施設を伴うようなものは見られず、そのほとんどが素掘りのままである。このような遺構や遺物の様相から見て、A・B両地点は一般階層レベルの人々が長年にわたって埋葬し続けた墓城の一部と思われ、その本格的な造営期間は、出土遺物の様相から15世紀後半頃～18世紀にわたると考えられる。

このA・B両地点のそれぞれ北側には、すでに述べたように長谷観音寺（宝藏寺）と真福寺の2つの真言宗系寺院が隣接しているが、それらの創建年代や開基・開山などの詳しい由緒は不明である。このうちB地点北側の真福寺は、その存立が中世に遡るような伝承や、本尊の阿彌陀如来像の台座底に文禄4年（1595年）の墨書銘文があり、また現在の墓地の一角に中世末期の多くの五輪塔（本書45ページ下段挿入写真）が見られるなど、その存立時期が中世後期まで遡ることが窺えるが、今回の発掘調査によって得られた遺構・遺物の時期の検討からもその可能性が十分推測されることは、今後の周辺地域の調査に向けてのひとつの成果と言えよう。

<参考文献>

- 荒川 正夫 (1998) 『大久保山VI』 早稲田大学本庄校地文化財調査報告書6
 金積 俊樹 (1995) 『社寺の信仰』『児玉町史』民俗編
 金子 彰男 (1995) 『反り町遺跡』『真下境西・反り町・八荒神北・八荒神南遺跡』 神川町教育委員会文化財調査報告第12集
 (1998) 『下北原遺跡』『中道遺跡第15・21・23・25地点 中北原遺跡第2・4地点 下北原遺跡』 神川町教育委員会文化財調査報告第17集
 神川町 (1989) 『神川町誌』
 君島 勝秀 (1999) 『長沖古墳群』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第234集
 栗岡真理子 (1996) 『神川町伝元大師跡の出土遺物について』『研究紀要』第18号 埼玉県立歴史資料館
 窓河内昭彦 (1991) 『真鏡寺後遺跡Ⅲ - C・F・D地点の調査-』 児玉町文化財調査報告書第14集
 (1995) 『飯玉東Ⅱ・高縄田・樋越・梅沢Ⅱ・東牧西分・鶴野・毛無し屋敷・石橋』 児玉町文化財調査報告書第17集
 (1996) 『辻堂Ⅱ・南街道・宮田遺跡』 児玉町文化財調査報告書第20集
 (1997) 『城の内・日延・東田・浅見境北遺跡』 児玉町文化財調査報告書第23集
 (1998) 『向田A・向田B・老丁田遺跡』 児玉町文化財調査報告書第27集
 (1999) 『日延Ⅱ・児玉条里遺跡』 児玉町文化財調査報告書第31集
 (2001) 『女池遺跡 - B・D地点の調査-』 児玉町文化財調査報告書第35集
 児玉町 (1990) 『児玉町史』近世資料編
 (1992) 『児玉町史』中世資料編
 (1995) 『児玉町史』民俗編
 埼玉県教育委員会 (1968) 『埼玉の城館跡』
 (1988) 『埼玉の中世城館跡』
 (1992) 『埼玉の中世寺院』
 坂本 和俊 (1981) 『ミカド遺跡の概要』『金屋遺跡群』 児玉町文化財調査報告書第2集
 菅谷 浩之 (1981) 『児玉党阿佐美氏館について』 児玉町史史料調査報告中世1
 鈴木 徳雄 (1981) 『上ノ堰遺跡の概要』『金屋遺跡群』 児玉町文化財調査報告書第2集
 徳山 寿樹 (1992) 『児玉町田端中原遺跡の調査』『第25回遺跡発掘調査報告会発表要旨』 埼玉県考古学会 埼玉会館 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 埼玉県教育委員会
 服部 敬史 (1997) 『内耳土鍋の研究(上)』『土曜考古』第21号 土曜考古研究会
 平田 重之 (1989) 『包樹原・楡下遺跡Ⅰ(阿保地の館跡) - 中世編-』 包樹原・楡下遺跡調査会報告書第1集
 丸山 陽一 (1990) 『国指定史跡 水殿瓦窯跡試掘調査報告』 美里町遺跡発掘調査報告書第6集
 美里町 (1986) 『美里町史』通史編
 岡角 まり (1996) 『内耳鍋から焙烙へ』『考古学研究』通巻168号 考古学研究会
 山本 靖 (1996) 『広木上宿遺跡 - 古代・中世編-』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第170集

写真図版

巨除觀音



A地点北側隣接地の長谷観音寺（宝蔵寺）



B地点北側隣接地の真福寺



金屋西遺跡A地点全景（東より）



金屋西遺跡A地点全景（西より）



金屋西遺跡A地点調査区南西側（西より）



金屋西遺跡A地点調査区北東側（北より）



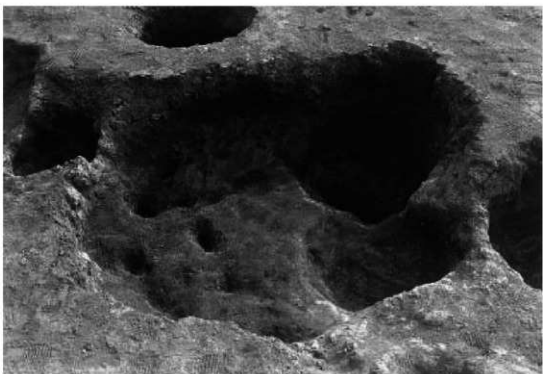
A地点第13号土壤



A地点第14~16号土壤



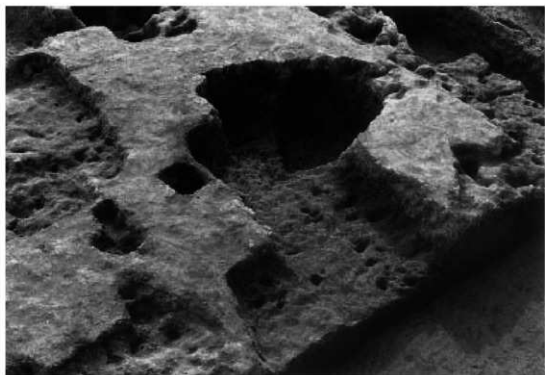
A地点第18~23号土壤



A地点第38号土壤



A地点第39号土壤



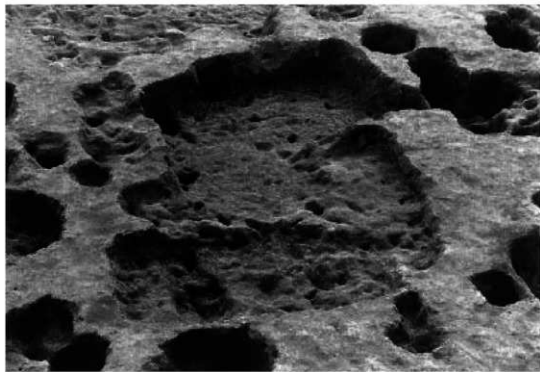
A地点第47·50·51号土壤



A地点第40・41号土塙（南から）



A地点第40・41号土塙（北から）



A地点第52·53号土壤



A地点第59·61·63号土壤



A地点第59·60·61·63·64·65号土壤



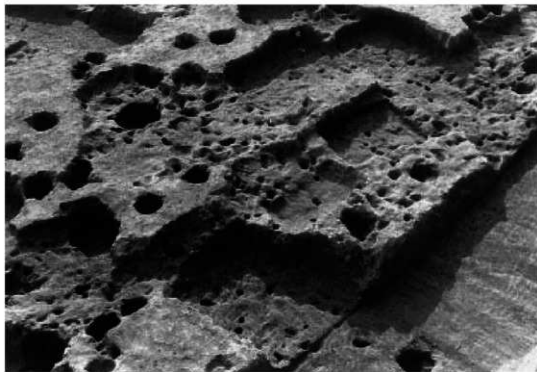
A地点第67号土壤



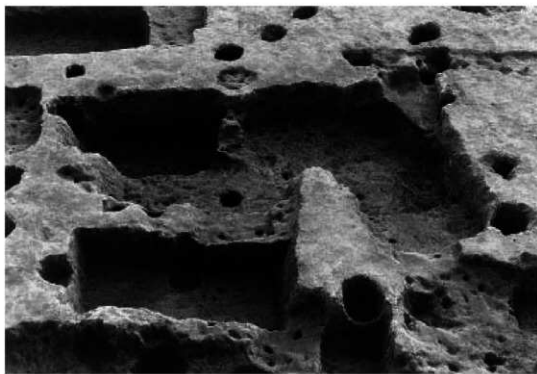
A地点第66号土壤遗物出土状态



A地点第66号土壤



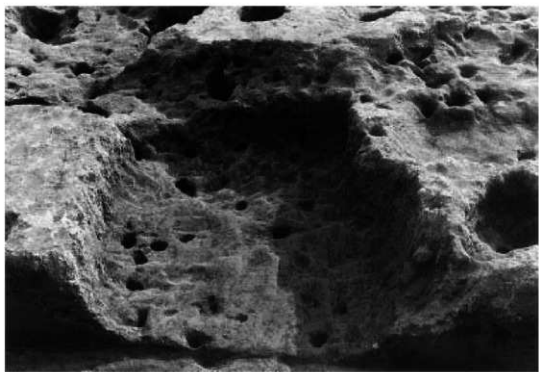
A地点第45・66・68・69・71・72・79号土壌



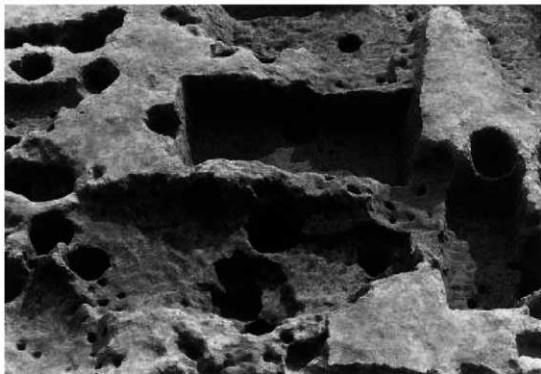
A地点第73~78・80号土壌



A地点第73~82号土壤



A地点第79号土壤



A地点第80~82号土壤



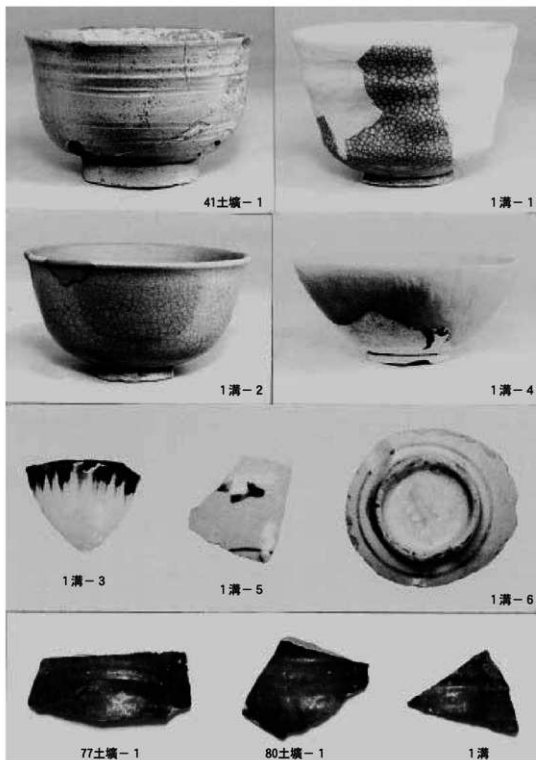
A地点第83号土壤



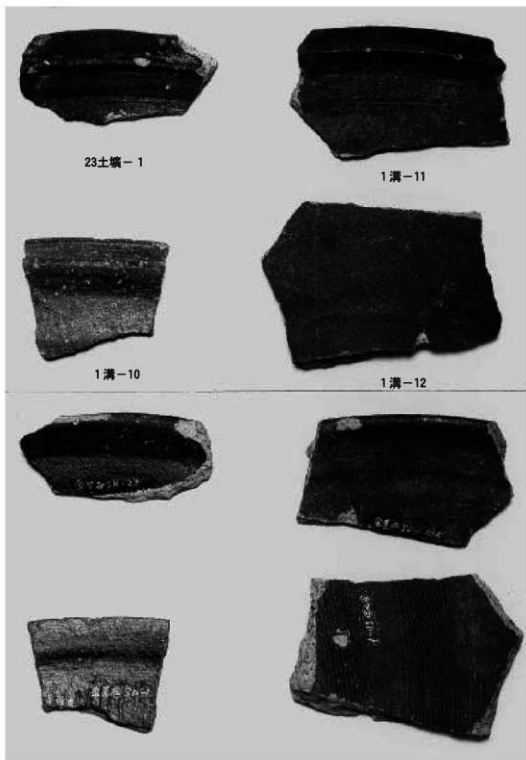
A地点第1号溝跡（北より）



A地点第1号溝跡（南より）



A地点出土遺物 (1)

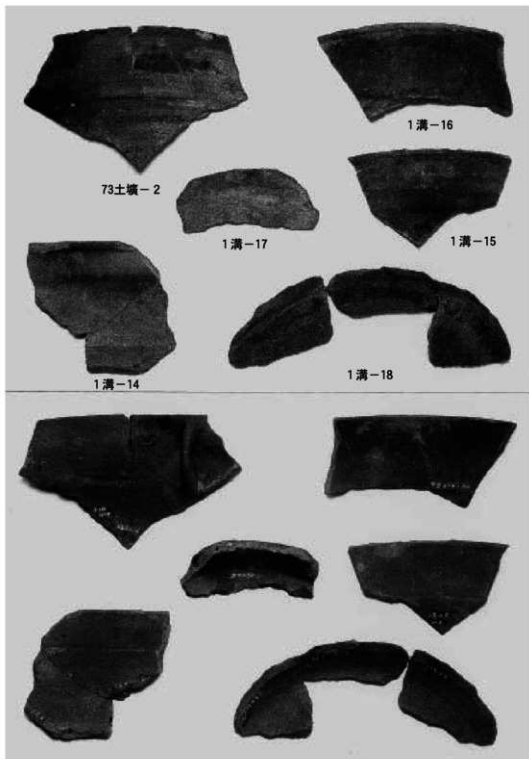


A地点出土遺物 (2)

上半-外面、下半-内面



A地点出土遺物 (3)



73土坑-2

1溝-16

1溝-17

1溝-15

1溝-14

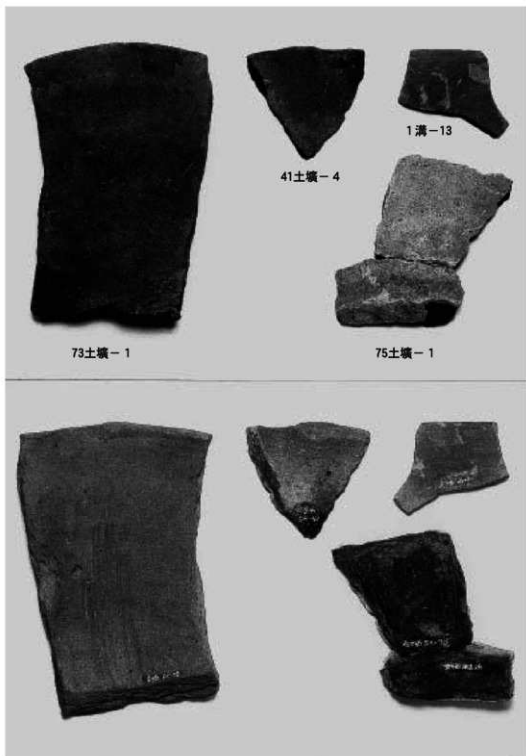
1溝-18

A地点出土遺物 (4)

上半-外面、下半-内面

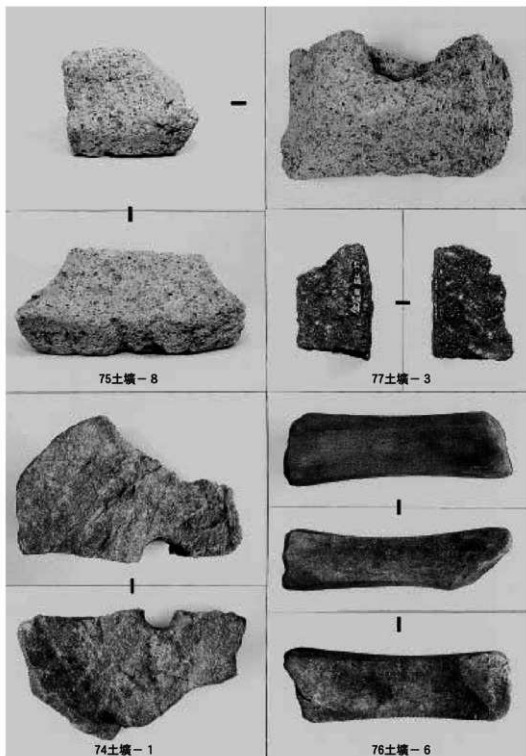


A地点出土遺物 (5)



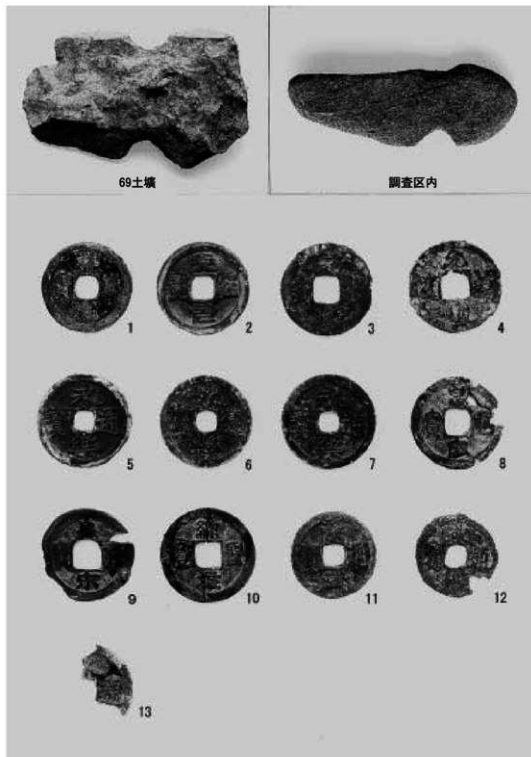
A地点出土遺物 (6)

上半-外面、下半-内面



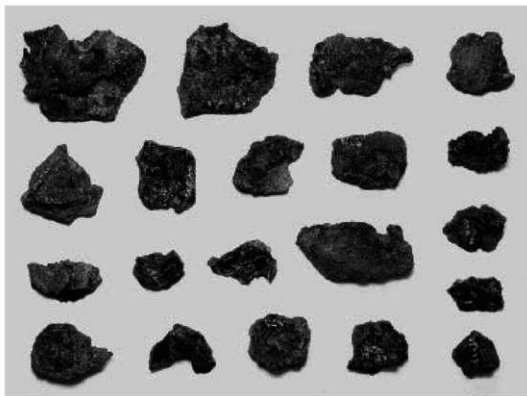
A地点出土遺物 (7)

—石製品—



A地点出土遺物 (8)

—石製品・古銭—



A地点調査区内出土鉄滓



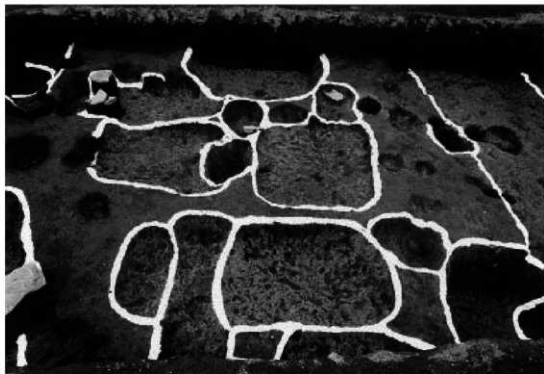
金屋西遺跡A地点の現況と長谷観音寺（西より）



金屋西遺跡B地点全景（東より）



金屋西遺跡B地点全景（西より）



B地点第1·7·8·9·12·13·14号土坑



B地点第2·3号土坑



B地点第4·5号土城



B地点第7号土城



B地点第10号土壤



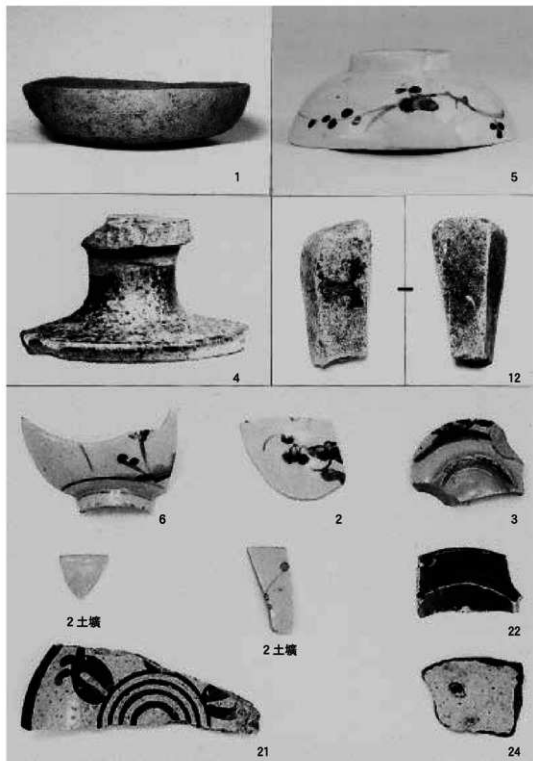
B地点第11号土壤



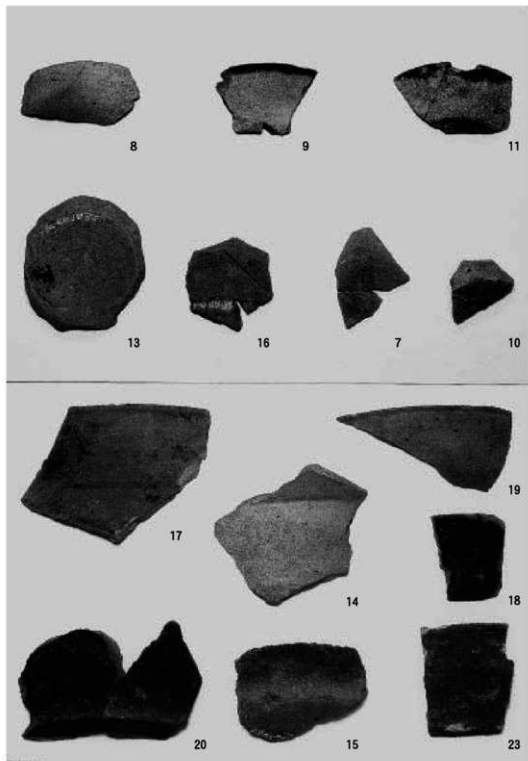
B地点第15号土壤



B地点第1号沟迹



B 地点出土遺物 (1)



B 地点出土遺物 (2)



B地点調査区内出土鉄滓



金屋西遺跡B地点の現況（南より）

報 告 書 抄 録

フリガナ	カナヤニシイセキ (A・Bチテンノチョウサ)							
書 名	金屋西遺跡 (A・B地点の調査)							
シリーズ	児玉町遺跡調査会報告書	巻 次	第 13 集					
編 著 者	恋河内昭彦							
編集機関	児玉町遺跡調査会							
所 在 地	〒367-0298 埼玉県児玉郡児玉町大字八幡山368番地 TEL 0495 (72) 1331							
発 行 日	2003年 (平成15年) 3月31日							
所収遺跡	所 在 地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺 跡					
金屋西遺跡 (A地点)	児玉郡児玉町 大字金屋字西 215番地6	113824	074	36°11'11"	139°7'27"	19950925 ? 19951115	923	事 務 所 建 設
金屋西遺跡 (B地点)	児玉郡児玉町 大字金屋字西 210番地8	113824	074	36°11'16"	139°7'28"	20010926 ? 20011012	20	アバート 浄化槽 埋設工事
所収遺跡	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
金屋西遺跡 (A地点)	墓 地	中世～近世	掘立柱建物1、土壇94、 溝3		陶磁器、在地産土器、石 製品 (白、砥石)、古銭、 鉄滓			
金屋西遺跡 (B地点)	集 落	古 代	掘立柱建物1		土師器坏			
	墓 地	中世～近世	土壇17、溝1		陶磁器、在地産土器、砥 石、鉄滓			

児玉町遺跡調査会組織

会 長	富丘 文雄	(児玉町教育委員会 教育長)
理 事	田島 三郎	(児玉町文化財保護審議会 委員長)
"	清水 守雄	(児玉町文化財保護審議会 副委員長)
"	間正 明彦	(児玉町文化財保護審議会 委 員)
"	荒井 一夫	(" ")
"	桜井 豊	(" ")
"	吉川 豊	(児玉町役場 総務課長)
"	杉村 義昭	(" 総合政策課長)
"	前川 由雄	(" 農林商工課長)
"	出牛 博	(" 土木課長)
"	立花 勲	(" 都市計画課長)
"	清水 満	(児玉町教育委員会 社会教育課長)
幹 事	永尾 清一	(" 社会教育課長補佐)
"	鈴木 徳雄	(" 文化財係長)
"	恋河内昭彦	(" 文化財係主任)
"	徳山 寿樹	(" 文化財係主事)
"	大熊 季広	(" 文化財係主事)
"	松澤 浩一	(" 文化財係主事)

児玉町遺跡調査会報告書 第13集

金 屋 西 遺 跡

— A・B地点の調査 —

平成15年3月25日 印刷

平成15年3月31日 発行

発行者 児玉町遺跡調査会
埼玉県児玉郡児玉町大字八幡山368番地

印刷所 たつみ印刷株式会社
埼玉県深谷市東大沼356番地

